スズキ車をお買いあげいただきありがとうございます。

車は取扱いを誤ると事故や故障の原因となります。正しい取扱いをご理解いただくため運転する前に、必ず取扱説明書をお読みください。そして安全で快適なバイクライフをお楽しみください。
またメンテナンスノートもぜひお読みください。

- この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検、整備の方法などについて説明してあります。
- **「必読！安全運転のために」**および次のシンボルマークで示したところは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠警 告	取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を生じる可能性がある危害の程度を示しています。
⚠注 意	取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性がある危害の程度を示しています。
注 記	取扱いを誤った場合、物的損害の発生する危害の程度を示しています。
アドバイス	お車のために守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを示しています。

お車受け取りの際は、お買いあげいただいたスズキ販売店より取扱説明書、メンテナンスノートを受け取り、下記の説明を受けてください。

◇ お車の正しい取扱い方法
◇ 日常点検、定期点検
◇ 保証内容と保証期間
◇ 保証書の発行 《保証書登録票の記入・捺印》

- お車を譲られるときは、次に所有される方のためにこの取扱説明書とメンテナンスノートをお渡しください。
- 仕様の変更などにより、この取扱説明書の内容とお車が一致しない場合があります。ご了承ください。

☆ この車は、平成19年排出ガス規制適合車です。

もくじ

必読！安全運転のために	運転の前に.....2	運転中は.....5	車の整備など.....7
取扱いの方法	各部の名称.....10 メータの見かた.....12 スイッチの使いかた.....22 ハンドルロック.....28 シート.....29	ヘルメットホルダ.....30 書類入れ、サービス工具.....31 ガソリンの給油.....31 ブレーキレバー.....33 クラッチレバー.....33	チェンジペダル.....33 フロントフォーク.....34 リヤショックアブソーバ.....35 シートテールカバー.....36 ETC 車載器.....38
正しい運転操作	エンジンのかけかた.....49	走りかた.....51	ブレーキの使いかた.....52
お車の点検	日常点検、定期点検.....55	日常点検項目.....56	
簡単な整備	簡単な整備.....57 スロットルケーブル.....57 ブレーキ.....58 クラッチ.....61	エンジンオイル.....62 冷却水.....64 フューエルタンク.....65 エアクリーナ.....66	ドライブチェーン.....68 ヒューズ.....70 バッテリ.....73 タイヤ.....74
お車の手入れ	洗車.....78 メータディスプレイ.....79 アルミホイール.....79	エキゾーストパイプ.....79 フェアリング.....80 つや消し塗装.....80	スロットルケーブルブーツ.....80 保管のしかた.....81 環境を保護するために.....81
サービスデータ	主要諸元.....84	サービスデータ.....85	車台番号.....85

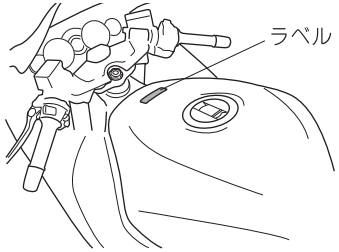
必読！安全運転のために

運転の前に

この章にあげた、日常走行する上での基本的な注意事項を守り、安全運転を心がけてください。

車の購入当初は、誰でも細心の注意をはらって運転しますが、なれるに従い注意を怠ってしまいます。事故防止のため、いつも細心の注意をはらって運転しましょう。

重要な事項を書いたラベルが車に貼られています。これらの注意をいつもお守りください。

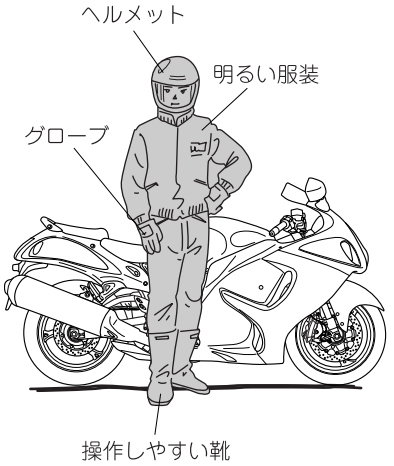


◇転倒などの際のけがを最小とするため、ヘルメットや手袋などの保護具を正しく着用してください。

◇取扱説明書をよくお読みください。

■ 安全な運転は正しい服装から

- ヘルメットを必ず着用してください。頭にしっくり合ったS、SGまたはJISマークのある二輪車用ヘルメットをかぶり、あごひもをしっかり締めましょう。
- ヘルメットシールドまたはゴーグルを使用してください。
- グローブを着用してください。グローブは摩擦に強い皮製が適しています。
- 服装は明るく目立ち、体の露出の少ない長袖、長ズボンを着用してください。万一のとき身体への衝撃を軽減します。
- 運転を阻害するような服装はやめましょう。そで口の広い服や、すそ広のズボンなどは運転操作の邪魔になります。
- 運転操作のしやすいくるぶしまで覆う靴をはいてください。



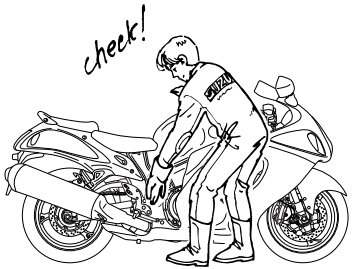
⚠警 告

- **ヘルメットを正しくかぶってください。正しくかぶらないと事故の際、死亡または重大な傷害を負う可能性が高くなります。**
- **運転者と同乗者は、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。**

うしろの席に乗る人は、背丈の長いジャケットやコートを着用しないでください。テールランプやターンシグナルランプが覆い隠されて、後続の車に見落とされるおそれがあります。
やむを得ず着用する場合は、ジャケットやコートのすそをお尻の下に敷くなどして、テールランプやターンシグナルランプが覆い隠されないようにしてください。

■ 点検整備をしましょう

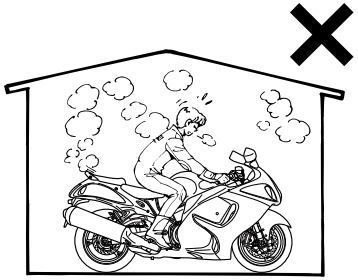
事故や故障を未然に防ぐため、日常点検と定期点検を必ず実施してください。
いつもと違う音やにおいがした場合などは、スズキ販売店で点検を受けてください。



運転の前に

■ エンジンをかけるときは

風通しのよい場所でエンジンをかけてください。

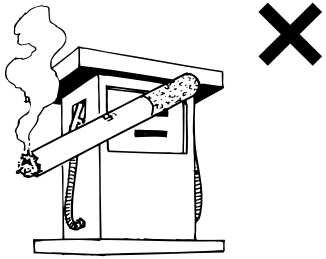


⚠警 告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

■ 給油するときは

ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて火気を近づけないでください。

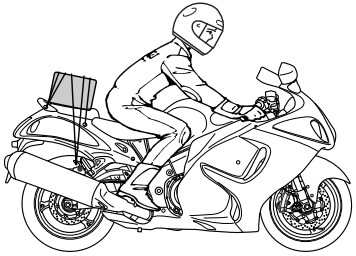


■ 乗車定員は2名

二人乗りでは通行できない道路区分もあります。また、二人乗りは年令や経験年数の制限もあります。二人乗りに関する条件や交通規制をしっかり守り、マナーのよい運転を心がけましょう。

■ 荷物

- 荷物を積むと、積まないときにくらべ操縦性・安定性が変わります。
- 荷物はゴムバンドなどでしっかり固定してください。

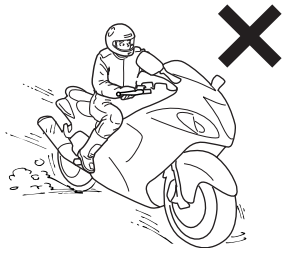


運転中は

■ 乗りかた

- 運転中は両手でハンドルを握り、足をフットレストに置いてください。同乗者には両手で身体をしっかり固定させ、足は後席用フットレストに乗せさせてください。
- 急激なハンドル操作や片手運転は絶対にしないでください。横すべりや転倒の原因となります。

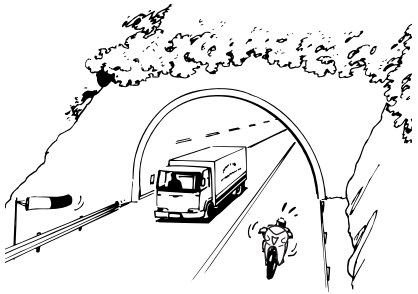




運転中は

■ 風が強い日は

横風が強いとき、トンネルの出口や橋の上、あるいは大型トラックに追い越されたり追い越したりするときは、横風を受けて車が流されることがあります。
スピードを抑え、ハンドルをしっかり握って運転しましょう。



■ 雨の日、雪の日は

- 路面がすべりやすいので急加速、急減速、急ブレーキは避けてください。
- ふだんよりスピードをおとして、早めにブレーキをかけてください。

■ 駐車するとき

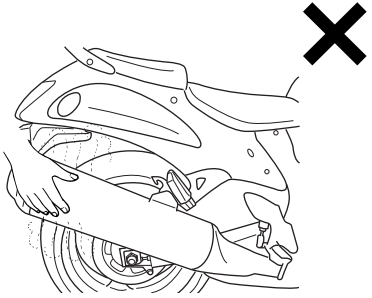
車から離れるときは、盗難抑止のため必ずハンドルをロックし、キーは抜いてお持ちください。
☞28ページの「ハンドルロック」参照

- 交通の邪魔にならない場所に駐車してください。
- 違法駐車はしないでください。
- 車は平らな場所に、ハンドルを左にきって駐車してください。ハンドルを右にきった状態での駐車は避けてください。
- やむをえず傾斜地、砂利の上、でこぼこな所、柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、車が転倒したり、動いたりしないように十分注意してください。

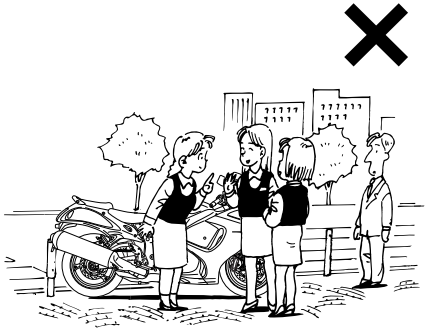
⚠注 意

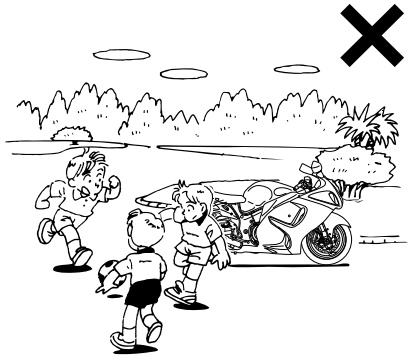
エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

● エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどに触れないでください。



● 他の人がマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。



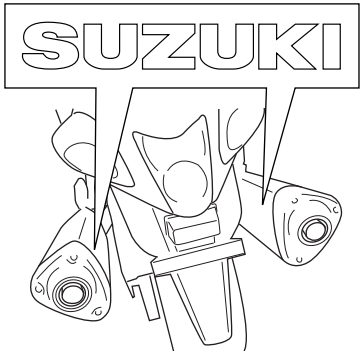


車の整備など

■ 不正改造はやめましょう

車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪くしたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。このような改造は法律に触れるばかりでなく、他の人の迷惑となります。
車の改造は保証の適用を除外されますのでご了承ください。

● マフラには、スズキ純正部品を表す“SUZUKI”マークが刻印されています。



車の整備など

- 自己流のエンジン調整、部品の取り外しは行わないでください。エンジン調整はスズキ販売店にご相談ください。
- あなたのお車に適したスズキ純正部品および指定・推奨油脂類をお使いいただくことをおすすめします。純正部品は厳しく検査し、スズキ車に適するように作られています。純正部品には下記の表示があります。



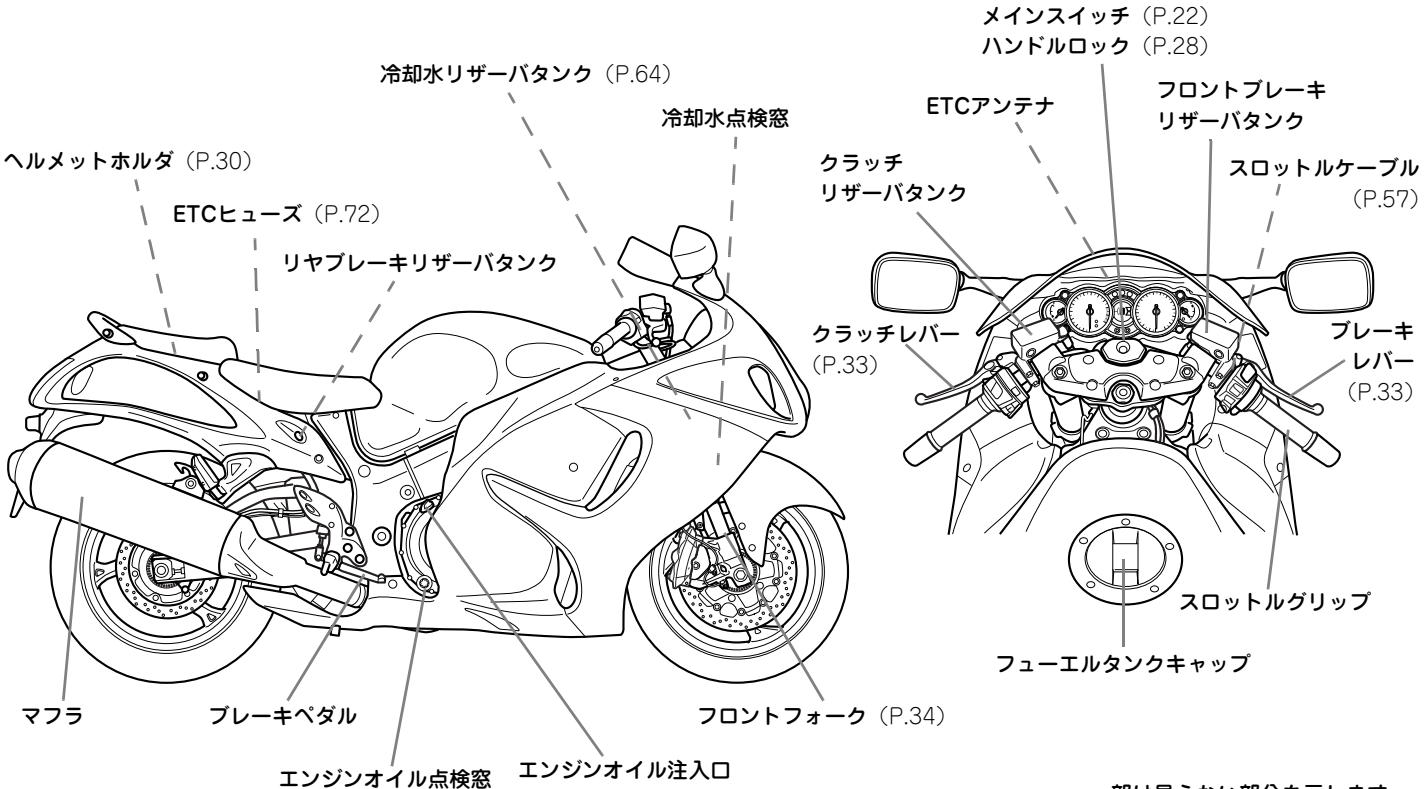
- この車は、排出ガス規制適合車です。
  マフラには排気ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。
  マフラを変更すると、排出ガス規制に適合しなくなるおそれがありますので、マフラを交換する場合はスズキ販売店にご相談ください。

⚠警 告

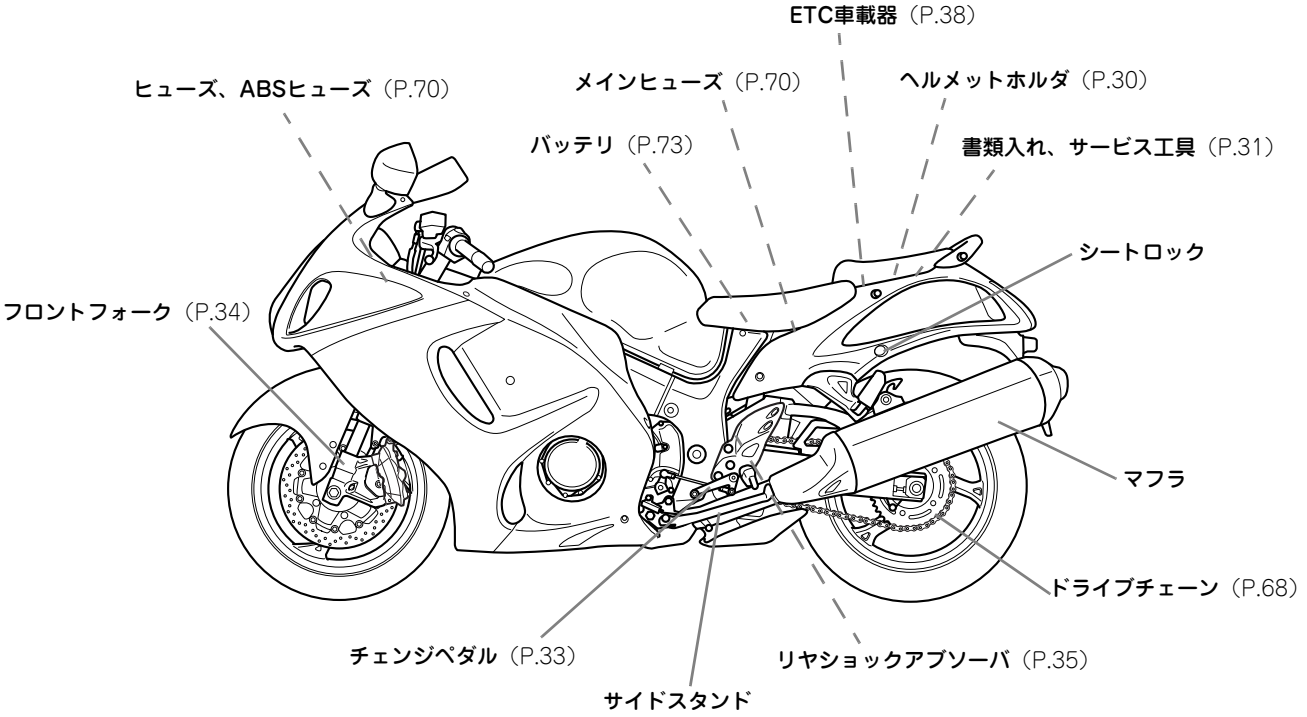
- **お客様による ETC 車載器の取り付け位置の変更、載せ換えは絶対に行わないでください。必ず指定のスズキ販売店にご相談ください。誤った取り付けを行うと、誤作動を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。**
- **メータ付近に ETC アンテナが搭載されています。通信エラーの原因になりますので、次のことをお守りください。**
  - **・メータ周辺には物を置かない**
  - **・メータ周辺にはメッキや金属性のアクセサリを取り付けない**
  - **・チタンコーティングされているウインドスクリーンは使用しない**
  - **・ウインドスクリーンにシールなどを貼らない**

メ モ

各部の名称

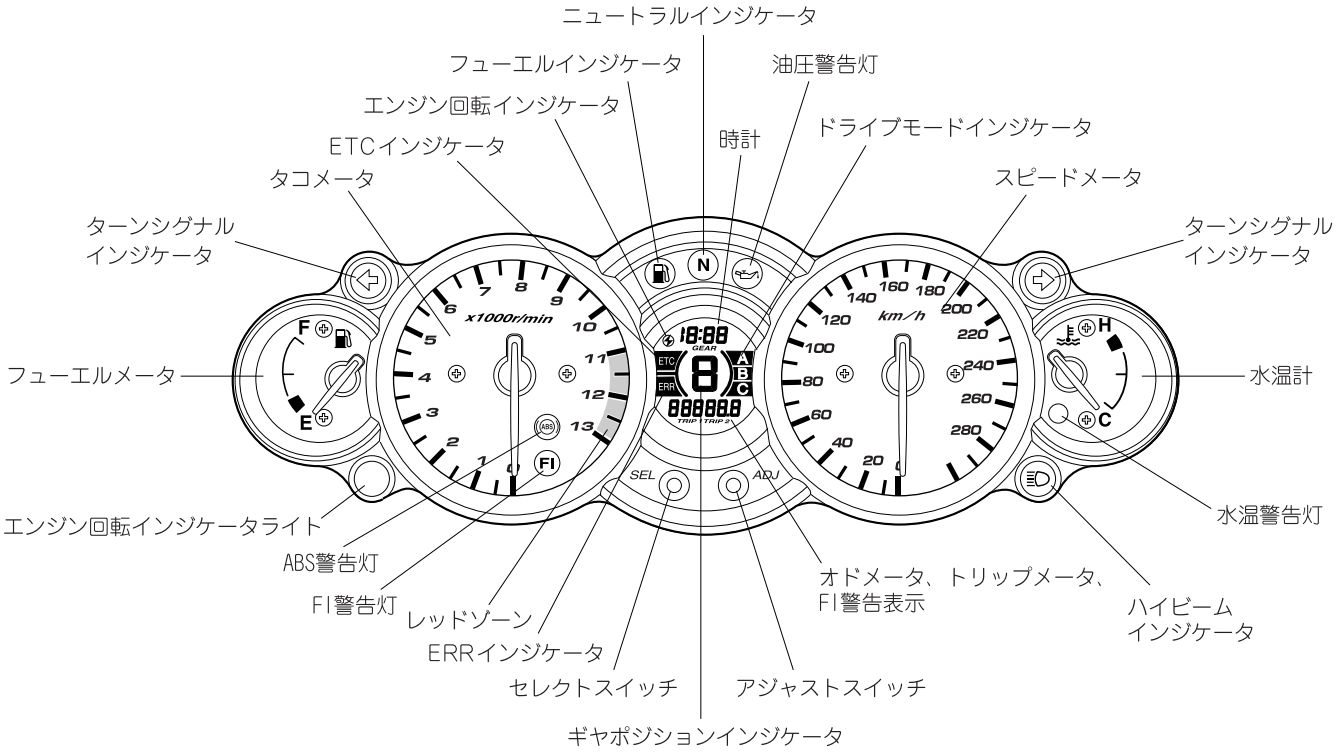


———部は見えない部分を示します。



――部は見えない部分を示します。

メータの見かた


ニュートラルインジケータ
フューエルインジケータ
油圧警告灯
エンジン回転インジケータ
時計
ドライブモードインジケータ
ETCインジケータ
タコメータ
スピードメータ
ターンシグナル
インジケータ
ターンシグナル
インジケータ
フューエルメータ
水温計
エンジン回転インジケータライト
水温警告灯
ABS警告灯
オドメータ、トリップメータ、
FI警告表示
FI警告灯
ハイビーム
インジケータ
レッドゾーン
ERRインジケータ
セレクトスイッチ
アジャストスイッチ
ギヤポジションインジケータ
x1000r/min
km/h
GEAR
ETC
ERR
TRIP1 TRIP2
SEL
ADJ
F
E
H
C
FI
ABS

メインスイッチを**ON**にすると
- タコメータの指針が最大まで振れて“0”に戻ります。
- FI警告灯、水温警告灯、エンジン回転インジケータライト、フューエルインジケータが約3秒間点灯します。
- 全液晶ディスプレイセグメント表示（チェックパターン表示）を行います。
- 油圧警告灯、ABS警告灯が点灯します。



⚠警 告

走行中にスイッチ操作を行なうと危険です。停止中に操作してください。

■ スピードメータ

車の走行速度をkm/hの単位で示します。

■ タコメータ

エンジンの回転速度を示します。

アドバイス

- **エンジンの回転速度がレッドゾーンに入らないよう注意して走行してください。**
- **空ふかしや、1速/2速での急加速はレッドゾーンに入りやすいので、特に注意してください。**

＜レッドゾーン＞

レッドゾーンとは、エンジンの許容回転速度を超えた回転域を示します。レッドゾーン内で使用すると、エンジンが円滑に回転しなくなり、エンジン寿命に悪影響を与えます。

＜指針の補正＞

指針が0に戻らない場合、補正することができます。

1. アジャストスイッチを押しながら、メインスイッチを**ON**にします。
2. アジャストスイッチを３～５秒間押し続けます。
3. アジャストスイッチを放し、１秒以内にアジャストスイッチを2回押します。

アドバイス

1～3の操作を10秒以内に行ってください。

メータの見かた

■ エンジン回転インジケータライト

エンジン回転速度が設定値に達すると、エンジン回転インジケータライトが点灯または点滅し、シフトアップのタイミングをお知らせします。
エンジン回転インジケータライトの点灯設定、照度設定、点灯タイミング（エンジン回転数）設定は、エンジン回転インジケータライトの設定モードで変更することができます。
メータ表示を、エンジン回転インジケータライトの設定モードに切り替えるには、セレクトスイッチを押しながら、イグニッションスイッチを**ON**にします。切り替わるまで、スイッチは2秒以上押し続けます。切り替わるとオドメータ、トリップメータの表示が消えます。

点灯設定（点灯／点滅／消灯）

アジャストスイッチを押してエンジン回転インジケータライトの点灯設定を変更します。点灯設定は、アジャストスイッチを押す毎に、点灯→点滅→消灯→点灯と変化します。また、エンジン回転インジケータライトが点灯または点滅に設定されている場合は、液晶ディスプレイ内のエンジン回転インジケータ“⚡”が表示されます。セレクトスイッチを押し、選択を確定します。点灯設定を、点灯または点滅に設定した場合、続けて照度設定、点灯タイミング（エンジン回転数）設定を行います。

アドバイス

エンジン回転インジケータライトの消灯を選択したとき、セレクトスイッチを押すと設定モードが解除され通常表示に戻ります。

照度設定

照度インジケータが液晶ディスプレイ内のオドメータ部に表示されます。アジャストスイッチを押してエンジン回転インジケータライトの照度を5段階に調整できます。照度インジケータは、照度を“□”（最低）から“□□□□□”（最高）まで表示します。セレクトスイッチを押すと選択が確定し、続けて点灯タイミング（エンジン回転数）設定を行います。

点灯タイミング（エンジン回転数）設定

照度設定後、点灯タイミング（エンジン回転数）設定に切り替わります。現在、設定されているエンジン回転数をタコメータの指針が示します。
アジャストスイッチを押して、エンジン回転インジケータランプの点灯または点滅を開始させたい回転数を設定します。アジャストスイッチを押すと、タコメータの指針が4000r/minから8000r/minまでは500r/min毎に、8000r/minから11500r/minまでは250r/min毎に動きます。タコメータの指針をお好みの回転数に合わせてセレクトスイッチを押すと設定が確定され通常表示に戻ります。

アドバイス

- **エンジン回転インジケータの設定は、メインスイッチをOFFにしても記憶しています。**
- **エンジン回転インジケータライトの設定モード中に、メインスイッチをOFFにしたり、車両速度が10km/h以上になると自動的に設定モードを解除し、通常表示に戻ります。この場合、設定途中のものは記憶されていません。**

■ フューエルメータ

フューエルタンク内のガソリン残量の目安を示します。レッドゾーンを指しかけたらガソリンを補給してください。レッドゾーンを指しかけたときの予備燃料容量は約5Lです。

アドバイス

- **フューエルインジケータが点灯したら、すみやかにガソリンを給油してください。**
- **サイドスタンド状態では、フューエルメータはガソリンの量を正しく表示できません。車体を垂直にした状態で確認してください。**

メータの見かた

■ 水温計

- エンジン冷却水の温度を示します。
- 走行中はレッドゾーンより下を示すのが正常です。

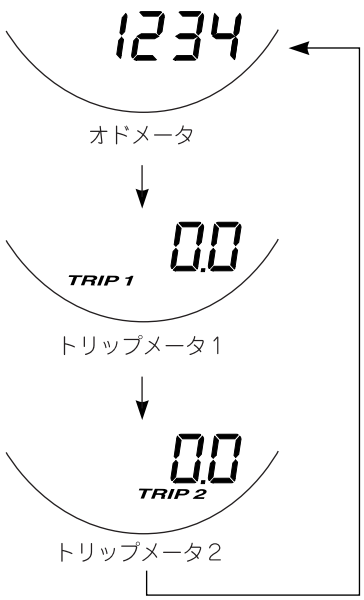
注 記

- **レッドゾーンを示したまま運転しないでください。エンジンが損傷するおそれがあります。**
- **レッドゾーンを示したら、エンジンをとめ、エンジンが冷えてからリザーバタンク内の冷却水量を点検してください。**
- **高温下での長時間にわたるアイドリングにより、指針がレッドゾーンを指す場合があります。この場合は、走行してエンジンを冷やすか、冷えるまでエンジンを停止してください。**

■ オドメータ、トリップメータ

メインスイッチを**ON**にするとチェックパターンを表示後、オドメータもしくはトリップメータ**1**または**2**を表示します。

- セレクトスイッチを押すと右図のように切り替わります。
- メインスイッチを **OFF** にしても設定は記憶されます。



＜オドメータ＞

- 走行した総距離をkmの単位で示します。
- オイル交換や定期点検の目安となります。
- オドメータの表示範囲は、0～999999です。999999を超えると、オドメータは999999を表示し続けます。

＜トリップメータ＞

- リセット後の走行距離がkmの単位で表示されます。
- **TRIP 1, 2** の2つのモードがあります。表示範囲は0.0～9999.9です。9999.9を超えると0.0に戻ります。
- アジャストスイッチを約2秒間押すとリセットされ、“0.0”を表示します。
  リセットされるのは表示している**TRIP1**または**2**だけで、表示していない方はそのままです。

■ 時計

時分を表示します。（12時間表示）

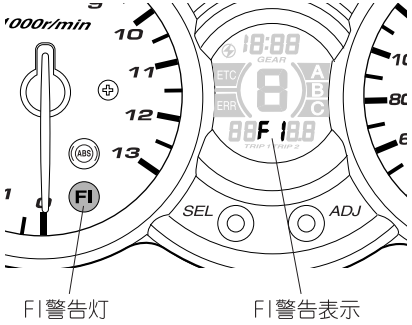
＜調整の仕方＞

1. セレクトスイッチとアジャストスイッチを同時に約2秒押すと時表示が点滅します。
2. アジャストスイッチを押し、時表示を調整します。
3. セレクトスイッチを押すと分表示が点滅します。
4. アジャストスイッチを押し、分表示を調整します。
5. セレクトスイッチを押して通常表示に戻します。

アドバイス

メインスイッチOFFでも、メータには微少電流が流れ、電力を消費しています。長期間（2か月以上）乗らない場合は、バッテリを外しておいてください。
詳細はP.81のアドバイスをご覧ください。

■ FI警告表示



燃料噴射機構に異常が起きると、オドメータディスプレイ内に**FI**と表示します。同時にFI警告灯が点灯または点滅します。

注 記

- **FI警告表示が出たまま運転しないでください。エンジンが損傷するおそれがあります。**
- **FI警告表示が出たら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。**

メータの見かた

アドバイス

- ディスプレイ内に FI と点灯表示され FI 警告灯が点滅している場合は、始動ができません。
- FI警告表示が点滅していて走行できない場合もあります。
- 次の表示が出た場合は、エンジンが始動できません。



以下の点検を行ってください。

- エンジンストップスイッチが になっていないか
- チェンジがニュートラル以外でサイドスタンドが出ていないか
- ヒューズが切れていないか
- ワイヤハーネスに異常がないか

CHEC表示が消えないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

■ FI警告灯 FI

燃料噴射機構に異常が起きると、点灯または点滅します。

注 記

- FI警告灯が点灯または点滅したまま運転しないでください。エンジンが損傷するおそれがあります。
- FI警告灯が点灯または点滅したら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。

■ 油圧警告灯

- メインスイッチを ON にすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。
- 潤滑系統の油圧が低下すると、油圧警告灯が点灯します。

注 記

- 油圧警告灯が点灯したまま運転しないでください。エンジンが損傷するおそれがあります。
- 油圧警告灯が点灯したらエンジンをとめ、オイル量を点検してください。
- オイル量が正常でも油圧警告灯が点灯する場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

■ ABS警告灯 (ABS)

- メインスイッチを ON にすると点灯し、車速が約10km/h以上になると消灯します。
- ABS に異常があると点灯または点滅します。

⚠注 意

- **ABS警告灯が点灯している場合は、ABSは作動しません。**
- **走行中に ABS 警告灯が点灯または点滅した場合は、スズキ販売店で点検してください。**

アドバイス

走り始める前に、エンジンの空ふかしをしたり、車両に振動を与えるとABS警告灯が消えることがあります。この場合は、一旦、メインスイッチをOFFにした後に、再度エンジンを始動してABS警告灯が点灯することを確認してください。ABS警告灯が点灯しない場合は、スズキ販売店にご相談ください。

■ 水温警告灯

冷却水の温度が規定値を超えると水温警告灯が点灯します。

注 記

- **水温警告灯が点灯したまま運転しないでください。エンジンが損傷するおそれがあります。**
- **水温警告灯が点灯したら、エンジンをとめ、エンジンが冷えてからリザーバタンク内の冷却水量を点検してください。**
- **高温下での長時間にわたるアイドリングにより、水温警告灯が点灯する場合があります。この場合は、走行してエンジンを冷やすか、冷えるまでエンジンを停止してください。**

■ ターンシグナルインジケータ ⇦⇨

ターンシグナルランプが作動すると点滅します。

■ ハイビームインジケータ ≡D

ヘッドランプが上向きのときに点灯します。

■ ニュートラルインジケータ N

変速ギヤがニュートラル（チェンジが入っていない）のときに点灯します。

■ ギヤポジションインジケータ

ギヤポジションを表示します。ニュートラル（チェンジが入っていない）のときは“0”を表示します。

メータの見かた

■ フューエルインジケータ

- メインスイッチを**ON**にすると約3秒間点灯します。その後フューエルタンク内に充分なガソリンが残っていれば、インジケータライトは消灯します。
- フューエルタンク内のガソリンが約5L以下になると点灯します。

アドバイス

- **点灯したらすみやかにガソリンを給油してください。**
- **サイドスタンド状態では、フューエルメータはガソリンの量を正しく表示できません。車体を垂直にした状態で確認してください。**

■ ドライブモードインジケータ

S－DMS（スズキドライブモードセレクター）により選択された異なる3つのドライブモード（A、B、C）のいずれかをディスプレイ内に表示します。

S－DMS（スズキドライブモードセレクター）の詳細はP.27＜S－DMS（スズキドライブモードセレクター）＞をご覧ください。

■ ETCインジケータ ETC

ETC車載器の作動状況に応じて、右の表のように点灯、点滅、消灯します。

■ ERRインジケータ ERR

ETC車載器が使用できない場合、右の表のように点灯、点滅します。

⚠警 告

ERRインジケータが点灯または点滅しているときは、ETCが利用できません。ETCを利用するときは、走行前や料金所通過時にERRインジケータが消灯していることを必ず確認してください。

アドバイス

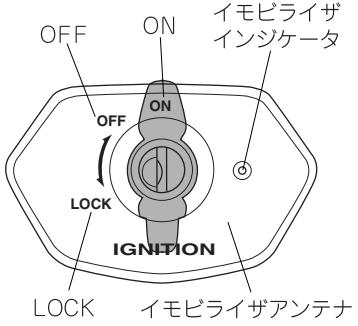
- **ETC インジケータのみが点灯しているときにかぎり、ETCが利用できます。**
- **ETC および ETC 車載器については、P.38をご覧ください。**

ETC利用	インジケータ表示		状態
○	ETC点灯 ERR消灯		・ETC利用可能 ・料金所で正常情報を受け取ったとき
×	ETC点灯 ERR点灯		・ETC利用不可能 ・ETCカード未挿入時(ETC車載器がセットアップ済み) ・料金所で停止情報を受け取ったとき
×	ETC点灯 ERR点滅		・ETC利用不可能 ・ETCカード認証中 ・ETCカード未挿入時(ETC車載器が未セットアップ)
×	ETC点滅 ERR点滅		・ETC利用不可能 ・ETC車載器の故障時
−	ETC消灯 ERR消灯	−	・ETCカードを挿入したままエンジンを切ったとき

スイッチの使いかた

■ メインスイッチ

電気回路のON-OFFをキーを回して行います。



ON

- エンジンの始動・走行ができます。
- 次のランプが点灯します。
  [ヘッド、テール、メータ、ポジション、ライセンス]
- スイッチ、ランプ類が使えます。
  [ターンシグナル、ホーン、ハザード、スタータ、パッシング]
- キーが抜けません。

OFF

- エンジンが停止します。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。

LOCK

- ハンドルがロックします。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。

⚠警 告

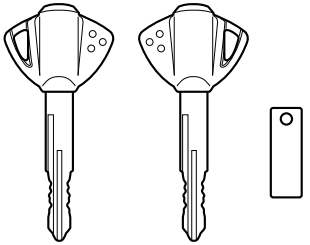
- **走行中はキーを操作しないでください。思わぬ事故につながることがあります。キーは停車後、操作してください。**
- **衝突やスリップにより転倒した場合は、車両に想定できない異常が発生する可能性があります。車両の異常により火災が発生したり、リアホイールなどの回転する部品に巻き込まれる可能性があります。**
  転倒した場合は、すぐにメインスイッチをオフにして、すべての装置を停止させます。転倒したときに、見えない部分に損傷を受けている可能性があるので、スズキ販売店にて点検を受けてください。

アドバイス

- **メインスイッチONでヘッドランプなどが点灯するため、エンジンをかけずにONのままにしておくとバッテリあがりの原因となります。**
- **車から離れるときは、盗難抑止のためハンドルをロックし、必ずキーを抜いてお持ちください。**
- **キーはメインスイッチ、フューエルタンクキャップなどに共通して使います。**
- **キーを差し込むときに、この車のスペアキーや他の車のイモビライザ対応キーをイモビライザアンテナに近づけるとイモビライザシステムが正常に作動しなくなることがあります。キーホルダにイモビライザ対応のキーを2個以上付けないでください。**

＜キーの取扱い＞

この車にはキーが2個と英数字のキー番号を印したプレートがセットされています。この車のキーは通常の機能に加え、イモビライザの役割を持っています。万一破損させたり、紛失したりすると多大な費用が必要となりますので大切に扱ってください。



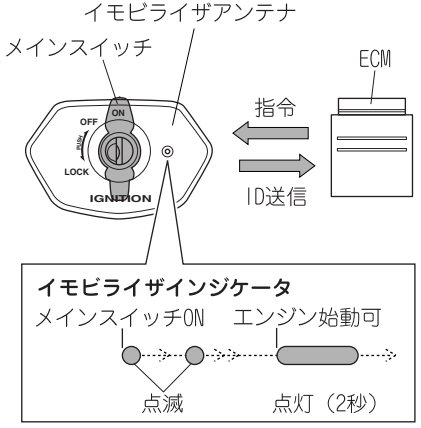
アドバイス

スペアキーは大切に保管してください。

スイッチの使いかた

<イモビライザ>

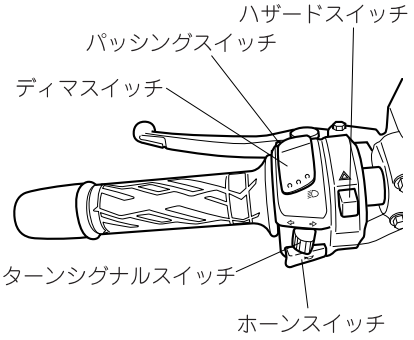
差し込まれたキーのIDが、車のECMに登録されているものかどうかを照合し始動の可否を判定します。
メインスイッチを **ON** にするとECM は、キーに内蔵されているコントローラにIDの送信を指令します。(このとき登録されているキーの個数と同じ回数だけインジケータが点滅します) これを受けてキーはIDを送信、ECMが正しいと判断すると始動可能となりインジケータが2秒間点灯します。



アドバイス

- **インジケータがいつまでも点滅する場合は、キーが違っているか、送信異常です。メインスイッチをOFFにしてやり直してください。**
- **キーは当初2個登録されています。さらに2個まで追加登録が可能です。この登録されているキーの個数と同じ回数だけインジケータが点滅します。**
- **キーを2つとも紛失してしまうと、ブランクキー 2個とECMまで交換しなければなりません。予備キーはしっかり保管してください。**
- **キーを差し込むときに、この車のスペアキーや他の車のイモビライザ対応キーをイモビライザアンテナに近づけるとイモビライザシステムが正常に作動しなくなることがあります。キーホルダにイモビライザ対応のキーを2個以上付けないでください。**

それぞれのスイッチはメインスイッチが **ON**のとき作動します。



■ ターンシグナルスイッチ

右折または左折するときや進路変更などの合図に使います。

右折

スイッチを⇨側に押すと、右側ターンシグナルランプが点滅します。スイッチを前に押してランプを消します。

左折

スイッチを⇦側に押すと、左側ターンシグナルランプが点滅します。スイッチを前に押してランプを消します。

⚠警 告

ターンシグナルスイッチは自動的に解除されません。使用後は、必ずスイッチを前に押して解除してください。点滅したままにしておくと周囲の誤判断を招き、事故を起こすおそれがあります。

アドバイス

ターンシグナルランプの電球（バルブ）に、正規ワット数以外のものを使用するとターンシグナルが正しく作動しません。必ず正規ワット数のものを使用してください。

■ ディマスイッチ

ヘッドランプの向きを切り替えます。

ハイビーム

スイッチを≡D側に押すと、ヘッドランプが上向きになります。

ロービーム

スイッチを彡D側に押すと、ヘッドランプが下向きになります。

注 記

ヘッドランプにはテープ類を貼らないでください。

アドバイス

対向車や先行車があるときは、ロービームで走行してください。

注 記

停車中に、点灯したヘッドランプやテールランプを物でさえぎったり、衣類などを被せないでください。ランプの熱により、レンズが溶けたり、置いた物が損傷することがあります。

■ ホーンスイッチ

スイッチを押すとホーン（警音器）が鳴ります。

■ パッシングスイッチ

追い越しのときなどに、自車の存在を知らせます。スイッチを押すとハイビームが点灯します。ハイビーム点灯中は作動しません。

■ ハザードスイッチ

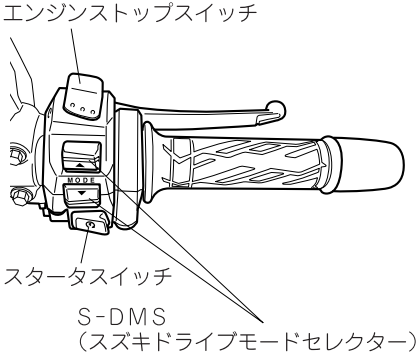
故障などの非常時に、停車するとき使用します。スイッチを押すと、すべてのターンシグナルランプが点滅します。

アドバイス

非常時以外は、使用しないでください。エンジン停止状態での使用は、バッテリあがりの原因となります。

スイッチの使いかた

それぞれのスイッチはメインスイッチが**ON**のとき作動します。



■ スタータスイッチ

クラッチレバーを握り、スイッチを押すとスタータモータが回転し、エンジンが始動します。サイドスタンドとギアの位置によりエンジンが始動しない場合があります。詳細は P.49<サイドスタンドインタロック>をご覧ください。

アドバイス

- **スタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリあがりの原因となります。**
- **エンジンストップスイッチが のときは作動しません。**

注 記

エンジンを始動する前に、ギヤポジションインジケータとニュートラルインジケータの状態を確認してください。以下の状態でない場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

- **ギヤポジションインジケータが“0”の表示をしているとき、ニュートラルインジケータが点灯していること。**
- **ギヤポジションインジケータが（1、2、3、4、5、6)いずれかの表示をしているとき、ニュートラルインジケータが消灯していること。**

■ エンジンストップスイッチ

転倒などの非常時に、ただちにエンジンを停止させます。
スイッチを側に押すとエンジンが停止します。通常はにしておきます。

⚠警 告

走行中にエンジンストップスイッチを→→にしないでください。エンジンが円滑に回転しなくなり、走行不安定の原因となります。またエンジンに悪影響を与えます。

アドバイス

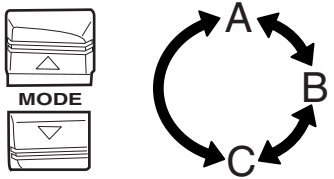
エンジンストップスイッチでエンジンを停止したときは、必ずメインスイッチをOFFにしてください。ONのままにしておくとバッテリあがりの原因となります。

■ S-DMS（スズキドライブモードセレクター）

S－DMSとは、高速クルージングや混雑路など様々な走行状況の中でライダーの好みに応じたエンジンの出力特性を、A、B、Cのドライブモードから選択することができる装置です。

＜操作のしかた＞

メインスイッチを**ON**にすると、常にAモードに設定されています。このとき、ディスプレイ内のドライブモードインジケータは、何も表示されていません。ドライブモードセレクター上部△または、下部▽を約1秒間押すとドライブモードインジケータにAが表示されます。ドライブモードを切り替えるには、ドライブモードセレクター上部△を押すとAからC→B→Aと切り替わります。下部▽を押すとAからB→C→Aと切り替わります。



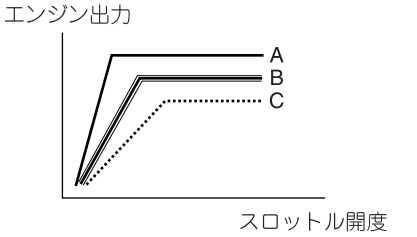
⚠警 告

S－DMSを走行中に操作すると、エンジン速度とエンジン出力の思わぬ変動の原因になることがあります。S－DMSの操作は、車両を停止して行ってください。

アドバイス

- **ドライブモードの切り替え操作に失敗した場合は、ドライブモードインジケータが点滅します。**
- **エンジンを再始動するとドライブモードはリセットされAモードに戻ります。**

＜ドライブモードの特性＞



出力特性のイメージ図

Aモード

最もシャープなスロットルレスポンスであり、すべてのスロットル開度において最大のエンジン出力が得られる特性。

Bモード

Aモードよりスロットルレスポンスがマイルド、かつ、すべてのスロットル開度においてややエンジン出力を抑えた特性。

Cモード

すべてのスロットル開度においてBモードよりもさらにスロットルレスポンスがマイルド、かつ、エンジン出力を抑えた特性。

ハンドルロック

車から離れるときは、盗難抑止のためにハンドルロックをかけましょう。
チェーンロックなどの併用もおすすめします。

＜かけかた＞

1. ハンドルを左へいっぱいにきります。
2. キーを押しながら **OFF** から **LOCK** まで回します。
3. キーを抜きます。

アドバイス

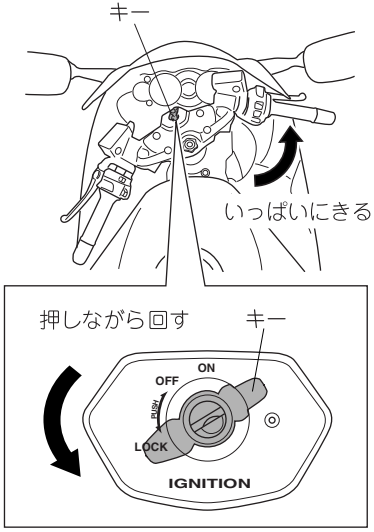
ハンドルを左右に動かして、確実にロックされているか確認してください。

＜外しかた＞

キーを差し込み、押しながら**OFF**まで回します。

アドバイス

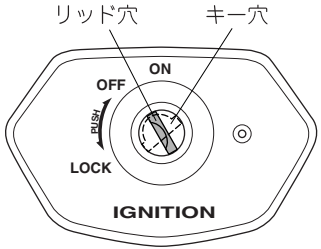
走行前にハンドルを左右に動かして、切れ角が左右均等かを確認してください。



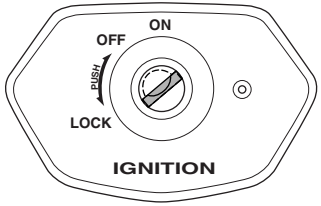
ハンドルロックのかけかた

アドバイス

- **メインスイッチのキー穴をカバーするリッドを設けています。**



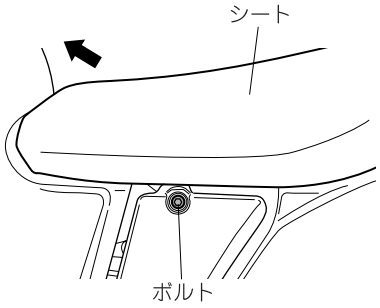
- **リッド穴がずれているときは、リッド穴をキー穴に合わせてください。**



シート

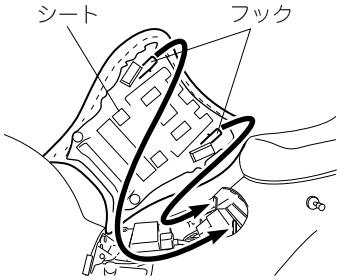
＜フロントシートの取り外し＞

1. 左右のボルトを外します。
2. シートの前部を持ち上げ、前方に引いて外します。



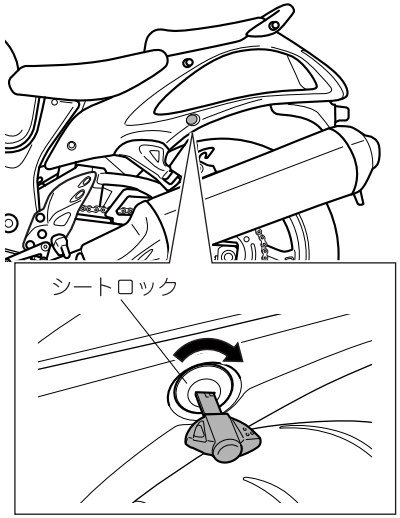
＜フロントシートの取り付け＞

1. シート裏側のフックを車体側に差し込みます。
2. シートの前部を押し下げ、左右のボルトを取り付けます。



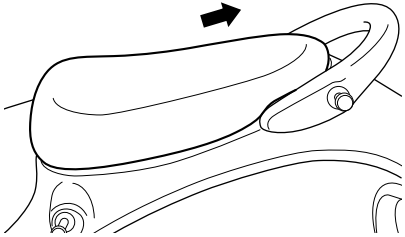
＜リヤシートの取り外し＞

1. シートロックにキーを差し込み、右に回してロックを解除します。



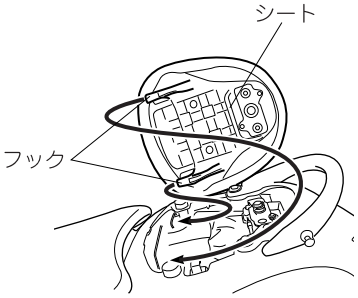
シート

2. シートの後部を持ち上げ、後方に引いて外します。



＜リヤシートの取り付け＞

1. シート裏側のフックを車体側に差し込みます。
2. シートの後部を押し下げ、ロックします。



アドバイス

- **シートを軽く持ち上げ、ロックがかかったことを確認してください。**
- **シートの下にキーを置いたままロックすると、キーが取り出せなくなりますので注意してください。**

ヘルメットホルダ

ヘルメットの盗難抑止のため、ヘルメットホルダを使いましょう。

1. リヤシートを外します。
2. ヘルメットホルダにヘルメットの金具をかけます。
3. リヤシートを取り付けます。



▲警 告

ヘルメットホルダにヘルメットをつけたまま走行しないでください。運転の妨げになります。またヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

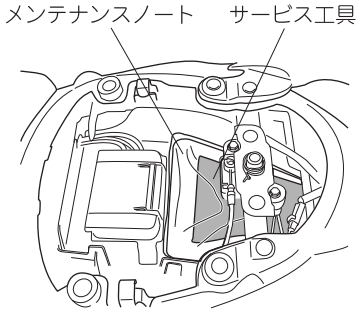
アドバイス

ヘルメットによっては、ヘルメットの形状やあごひもの長さにより、ヘルメットホルダに取り付けできないことがあります。

書類入れ、サービス工具

リヤシートを外すと、書類入れ、サービス工具があります。

- メンテナンスノートは、ビニール袋に入れてここに保管してください。
- サービス工具は、袋に入れてからバンドで固定してください。

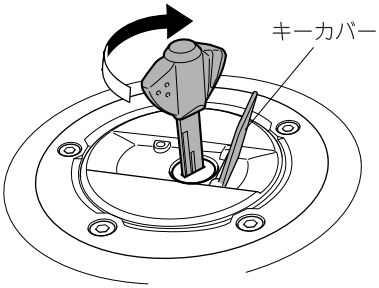


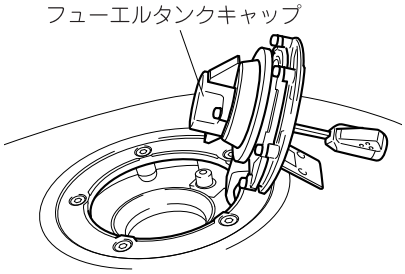
アドバイス

洗車時などに水が入る場合があります。大切な物を入れる場合はご注意ください。

ガソリンの給油

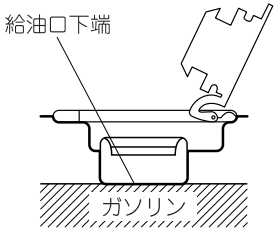
1. フューエルタンクキャップのキーカバーを開けます。
2. キーを差し込み、右に回してロックを解除します。
3. キャップを持ち上げます。





ガソリンの給油

4. ガソリンを給油口の下端まで入れます。
   指定燃料：無鉛プレミアムガソリン
5. キャップを押し下げ、キーを左へ回して抜きます。キャップがロックされないとキーは抜けません。



⚠警 告

ガソリンは引火性が高く取扱いを誤ると火災を起こすおそれがあります。

- **ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて火気を近づけないでください。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。静電気を帯びていると、放電の火花でガソリンに引火するおそれがあります。**
- **給油操作は、一人で行い他の人を近づけないでください。**
- **ガソリンは給油口下端より上に入れないでください。キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。**
- **給油後、フューエルタンクキャップをカチッと音がするまで確実に閉めてください。**
- **こぼれたガソリンは、布などで完全にふき取ってください。**

注 記

- **必ず無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、その他アルコール系の燃料、軽油など、また不適切な添加剤は、エンジンや燃料系統を損傷する原因となります。**
- **給油時など、フューエルタンクに砂ぼこりや水などの異物が混入しないように注意してください。フューエルポンプの詰まりの原因となるおそれがあります。**

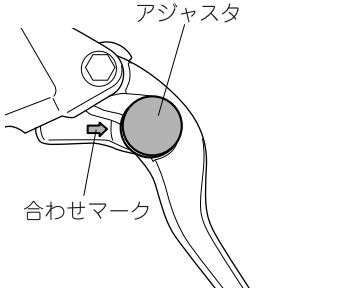
♪アドバイス

加速不良やエンジン出力が出ないなどのエンジンの不調が起きるときは、使用しているガソリンが原因の場合があります。そのときは、給油するガソリンスタンドを変えてみてください。ガソリンスタンドを変えても症状が改善しないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

ブレーキレバー

ブレーキレバーとグリップとの間隔が調整できます。

- ブレーキレバーを前方に押し、アジャスタを回します。
- アジャスタの数字を「合わせマーク」にしっかりと合わせます。



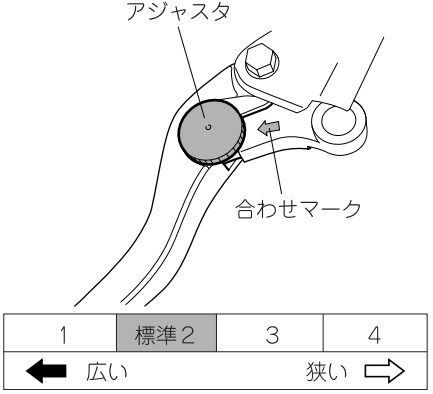
⚠警 告

走行中は調整を行わないでください。思わぬ事故につながることがあります。調整は必ず停車中に行ってください。

クラッチレバー

クラッチレバーとグリップとの間隔が調整できます。

- クラッチレバーを前方に押し、アジャスタを回します。
- アジャスタの数字を「合わせマーク」にしっかりと合わせます。



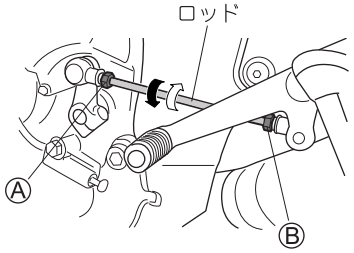
⚠警 告

走行中は調整を行わないでください。思わぬ事故につながることがあります。調整は停車中に行ってください。

チェンジペダル

チェンジペダルの位置が調整できます。

- ロックナットⒶ、Ⓑをゆるめ、ロッドを回します。
- ロッドを手前（⬇）に回すとペダル位置が低く、反対（⇧）に回すと高くなります。



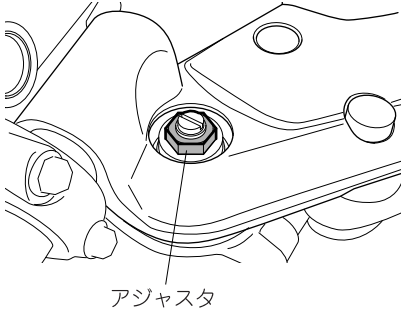
アドバイス

- **調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。**
- **ロックナットⒷは左ねじです。ゆるめるときは右に回し、取り付けるときは左に回します。（ロックナットⒶは右ねじです。）**

フロントフォーク

■ スプリングの強さ

- アジャスタを H(右側) へ回すと強く、S(左側)へ回すと弱くなります。
- 標準位置は、アジャスタをH(右側)に止まるまで回した位置から、S(左側)に6回転戻した位置です。



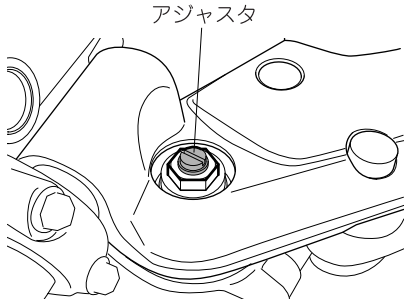
注 記

左右同じ位置に調整してください。

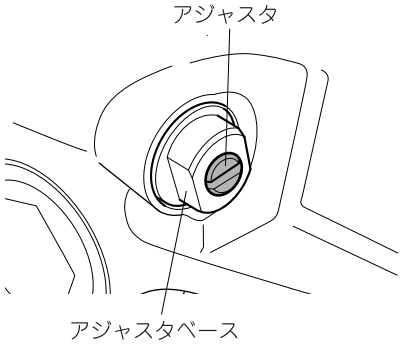
■ 減衰力の調整

- マイナスドライバでアジャスタを回します。
- アジャスタを H(右側) へ回すと強く、S(左側)へ回すと弱くなります。
- 標準位置は、アジャスタをH(右側)に止まるまで回した位置から、S(左側)に8クリック戻した位置です。

<伸側減衰力>



<圧側減衰力>



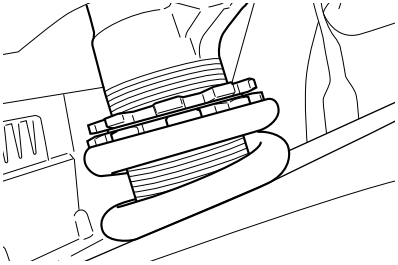
注 記

- **左右同じ位置に調整してください。**
- **圧側アジャスタベースをゆるめないでください。フロントフォークオイルが漏れるおそれがあります。**

リヤショックアブソーバ

■ スプリングの強さ

アジャスタリングの位置を調整します。この作業には、特殊工具が必要になりますので、調整は、スズキ販売店にご相談ください。

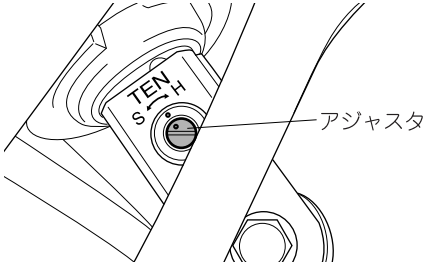


■ 減衰力の調整

- マイナスドライバでアジャスタを回します。
- アジャスタを H(右側) へ回すと強く、S(左側)へ回すと弱くなります。

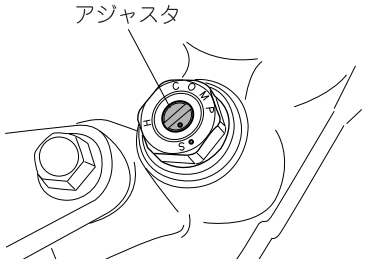
<伸側減衰力>

標準位置は、アジャスタをH(右側)に止まるまで回した位置から、S(左側)に12クリック戻し、側近の2つのポンチマークを合わせます。ポンチマークが合わないときは、アジャスタを微調整して合わせます。



<圧側減衰力>

標準位置は、アジャスタをH(右側)に止まるまで回した位置から、S(左側)に8クリック戻し、側近の2つのポンチマークを合わせます。ポンチマークが合わないときは、アジャスタを微調整して合わせます。



リヤショックアブソーバ

⚠警 告



リヤショックアブソーバには、高圧の窒素ガスが封入されています。不適切な取り扱いをすると、爆発や破裂が起こるおそれがあります。

- **火や熱から遠ざけてください。**
- **取扱説明書をよくお読みください。**

アドバイス

リヤショックアブソーバを廃棄するときは、スズキ販売店にご相談ください。

シートテールカバー

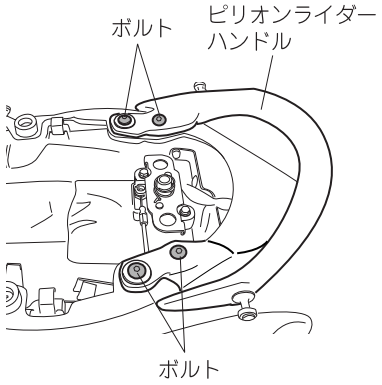
＜シートテールカバーの取り付け＞

一人乗り用のシートテールカバーを取り付けることができます。

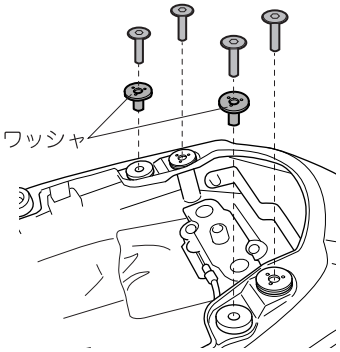
1. リヤシートを取り外します。
2. ４本のボルトを外し、ピリオンライダーハンドルを外します。

アドバイス

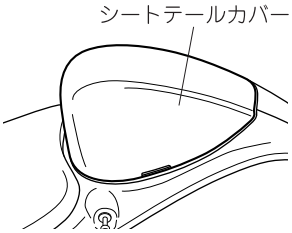
ピリオンライダーハンドルに付いて外れてくるワッシャとクッションは、再度、ピリオンライダーハンドルを取り付けるときに必要となります。ピリオンライダーハンドルと一緒に保管してください。



3. 付属のワッシャを取り付け、取り外した４本のボルトを規定トルクで締め付けます。
規定トルク：23N·m



4. シートテールカバーを取り付けます。



＜シートテールカバーの取り外し＞

取り付けの逆の手順でシートテールカバーを取り外します。ピリオンライダーハンドルを固定している４本のボルトを規定トルクで締め付けます。
規定トルク：33N·m

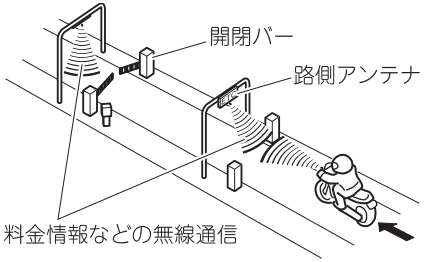
アドバイス

- **固定ボルトの締め付けは、トルクレンチを使用してください。トルクレンチが無い場合は、スズキ販売店にご相談ください。**
- **リヤシートとピリオンライダーハンドルを取り外して、シートテールカバーを取り付けると一人乗りになります。その場合、自動車検査証の記載内容を変更する構造変更申請が必要です。**

ETC車載器

■ ETCシステムとは

ETC（Electronic Toll Collection）システムは、料金所の通過をスムーズに行なうため、有料道路の料金を自動で精算するシステムです。
ETC車載器が料金所設置の路側アンテナと無線通信を行ない、料金はお客様が登録されたETCカードの引き落とし口座から後日引き落とされます。



■ ETC利用時のご注意

<ETCカードの有効期限を確認>

ETC車載器を使用する前に、使用するETCカードの有効期限を必ず確認してください。

⚠警 告

有効期限切れや、発行元が無効としたETCカードを車載器に挿入した場合でも、車載器はカードを正常に認証（メータのERRインジケータが消灯）しますが、開閉バーは開きませんのでETCカードが有効であることを必ず確認してください。料金所で開閉バーが開かずに衝突するなど、事故の原因となります。

<ETC車載器の作動を確認>

乗車前に、ETCカードをETC車載器に確実に挿入し、メータのERRインジケータが消灯することを確認してください。
ETCカードが正常に挿入され、認証完了後に通信が行える状態になると、点滅していたメータのERRインジケータが消灯します。
なお、ETCをご利用できない場合は、メータのERRインジケータが点灯または点滅します。



ＥＴＣを利用できます
（ＥＲＲインジケータが消灯）



ＥＴＣを利用できません
（ＥＲＲインジケータが
点灯または点滅）

⚠警 告

**ERRインジケータが点灯または点滅しているときは、ETCが利用できません。
ETCを利用するときは、走行前や料金所通過時にERRインジケータが消灯していることを必ず確認してください。料金所で開閉バーが開かずに衝突するなど、事故の原因となります。**

<料金所を通過するときは>

ETC車線には、十分な車間距離をとり、20km/h 以下に減速して進入し、徐行して通行してください。
スマートインターチェンジ*をご利用の際は、車両が停止した状態で通信の送受信が行われるため、必ず開閉バーの手前で一旦停止してください。

* スマートインターチェンジ：
高速道路の本線、サービスエリア、パーキングエリア等から乗り降りができるように設置され、ETCを搭載した車両のみ通行可能なインターチェンジ

なお、開閉バーは、ETC車載器と料金所間で通信エラーがあると開かないことがあります。

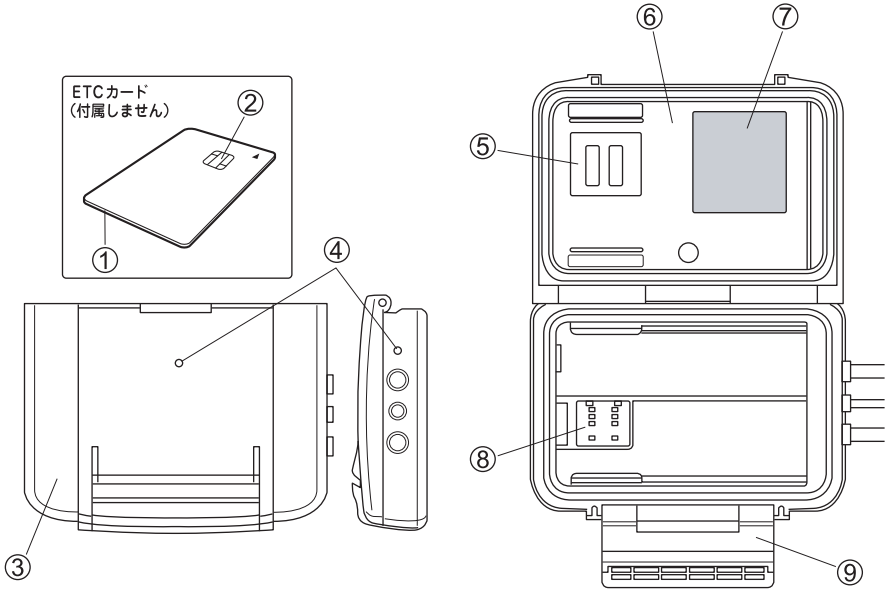
⚠警 告

以下の内容を守って運転してください。料金所で開閉バーが開かずに衝突するなど、事故の原因となります。

- **料金所には、安全に通行できるように路面表示があります。必ず、前車との車間距離を十分に取り、20km/h以下に減速して進入し、路面表示にしたがって1台ずつ通行してください。**
- **スマートインターチェンジでは、開閉バーの手前で必ず一旦停止してください。**
- **ETC利用時には、必ず有効なETCカードを挿入し、ERRインジケータが消灯していることを確認してください。**
- **メータの ERR インジケータが消灯していても、通信エラーやアンテナ故障などで開閉バーが開かないことがありますので、安全な速度で料金所を通過してください。**
- **料金所内での並走、追越し、割込み、車群走行は絶対に行わないでください。**
- **料金所のアンテナと通信ができなかった場合（アンテナ故障など）、エラー表示(メータのERRインジケータが点滅または点灯)は行いません。また、このような場合は、ETCをご利用できません。**
- **有料道路の入口料金所から出口料金所を出るまでは、同一のETCカードを継続して使用してください。異なるETCカードを使用すると料金所の開閉バーが開きません。**
- **ETCご利用時でも、不測の事態(事故や異常気象)の際には、現場での指示などに従って運転してください。**
- **開閉バーが開かなかったときは、開閉バーおよび後続車両等に十分注意を払い、安全を確認の上、開閉バーを避けて通過し、ETC車線から退避してください。**
  ※ETC車線を通行中に開閉バーが開かなかった際は、路側表示が「停車」と出る場合もありますが、後続車による追突防止のため、後退やUターンしたりせず、二輪車の通行方法を指定する案内板や路面表示等に従い、開閉バーを避けて通過してETC車線から退避し、駐停車が禁止されていない場所から安全を確認の上、すみやかにご利用の高速道路会社にご連絡ください。
- **ETCのご利用方法、通行方法、制限事項等については「ETCシステム利用規程」(http://www.go-etc.jp/)に従ってください。ETCのご利用前に必ずご熟読ください。**

ETC車載器

■ ETC車載器各部の名称



① **ETCカード**
お客様ご自身でご用意ください。

② **ICチップ(電極)**
カード情報が記録されています。

③ **ETC車載器本体**
ETCカードを装着させ、路側アンテナとの通信の制御を行います。

④ **呼吸穴**
ケース内の気圧を調整し、防水性を保ちます。

⑤ **耐振ゴム**
ETCカードとカードソケットの接触を保持します。

⑥ **カバー（上蓋）**
ETCカード着脱時に開閉します。

⑦ **銘板**
型式、製造年月日、技適番号、車載器管理番号等が記載されています。

⑧ **カードソケット**
ETCカードとの通信を行います。

⑨ **バックル**
カバー（上蓋）をロックします。

<ETC車載器、ETCカードの取扱い上のご注意>

- ETC 車載器の分解や改造をしないでください。法律により処罰されることがあります。
- カバー（上蓋）内側の、銘板に記載されている車載器管理番号は、本車載器を利用した各種サービスを受けるための大切な番号です。サービスをご利用の際は、車載器管理番号をご確認ください。
- カバー（上蓋）内側の銘板は、剥がさないでください。認証機器として認められなくなります。
- ETCカードの取扱いは、ETCカード発行会社が提示する注意事項に従ってください。
- 車両から離れる時は盗難予防のため、ETCカードをETC車載器から取り出してください。

⚠警 告

- **お客様による ETC 車載器の取り付け位置の変更、載せ換えは絶対に行わないでください。必ず指定のスズキ販売店にご相談ください。誤った取り付けを行うと、誤作動を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。**
- **メータ付近に ETC アンテナが搭載されています。通信エラーの原因になりますので、次のことをお守りください。**
  - **・メータ周辺には物を置かない**
  - **・メータ周辺にはメッキや金属性のアクセサリを取り付けない**
  - **・チタンコーティングされているウインドスクリーンは使用しない**
  - **・ウインドスクリーンにシールなどを貼らない**

⚠警 告

以下の場合は、直ちにETC車載器への電源供給を止め、すみやかにスズキ販売店へご連絡ください。そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因となります。

- **内部に水や金属等の異物が入ったとき**
- **煙が出ている、異臭がする、異常に熱いなどの異常に気がついたとき**
- **ETC 車載器本体に亀裂などの破損を見つけたとき**

ETC車載器

⚠警 告

ETC車載器には精密な電子部品が組み込まれています。故障、誤動作、火災、感電、けがを防ぐため、以下の取り扱い方法を守ってください。

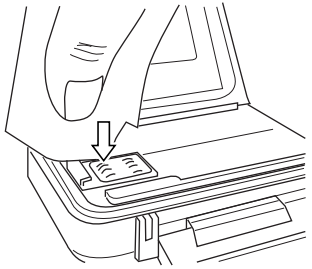
- 再配線をしない
- 分解や改造をしない
- 内部に異物を入れない
- 濡れた手で操作したり、水などをかけたりしない
- ETC カードの出し入れは、湿気、ほこり、油煙等が少ない場所、また雨等に濡れない場所で行う
- ETC車載器を火中に投入しない
- コード類を無理に引っ張らない
- ETC車載器をねじったり、重いものを載せたり、強く押しつけたりしない

注 記

- ETC 車載器に強い衝撃を与えないでください。破損や故障の原因になります。
- ETC車載器の表面を掃除するときは、シンナー、ベンジン、ガソリン等の有機溶剤を使用しないでください。樹脂表面を痛める原因となることがあります。ETC車載器の表面の掃除は、ちり、ごみを取り除き、清潔な布で乾拭きするようにしてください。
- ETC 車載器本体にある呼吸穴は塞がないでください。防水性低下を招いたり、カバー（上蓋）が開かなくなるおそれがあります。
- ETC車載器のカバー（上蓋）に付いている耐震ゴムは剥がさないでください。カード認識エラーの誘発およびカード破損の原因となることがあります。
- 走行前に積雪等によりアンテナの前方が遮られていた場合は、遮るものを取り除いてください。通信障害を起こす原因となることがあります。
- 運転後は盗難予防のため ETC カードをETC車載器から取り出してください。また、車両が高温になり、カードが変形したり、カード内のデータが破損したりするおそれがあります。

<ETC車載器のお手入れ方法>

カードソケット部分を乾いた布等で軽く押さえ、汚れ・水分を取り除いてください。



注 記

カードソケットが破損するおそれがあるので、ソケット面を擦り付けることは避けてください。

■ ETCを初めて利用するための準備

ETCを利用するには、事前にETCカードの取得と、ETC車載器のセットアップが必要です。

<ETCカードの取得>

お客様ご自身によるクレジットカード会社または有料道路事業者へのお申し込みが必要です。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

<ETC車載器のセットアップ>

正しく通行料金を精算するため、ナンバープレートなどの車両情報をETC車載器に登録する「セットアップ」の作業（有料）が必要です。
「セットアップ」の作業(有料)は、一般財団法人道路システム高度化推進機構に登録されているセットアップ店以外では行うことができません。

アドバイス

- **以下の場合は、ETC 車載器の再セットアップが必要です。**
  - **ナンバープレート(自動車登録番号標および車両番号標)が変更になった場合**
  - **ETC 車載器を他の車両に付け替えた場合**
- **ETC 車載器がセットアップがされていないときは、ERRインジケータが点滅を続けます。**



未セットアップ時

ETC車載器

■ ETCを利用するときは

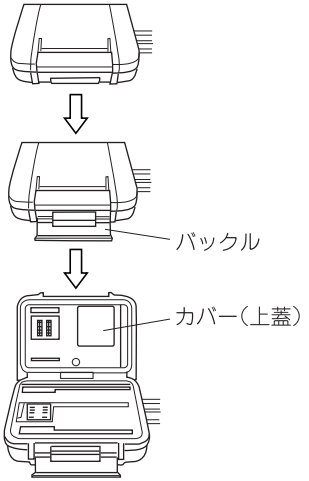
ETCを利用する際は、セットアップされたETC車載器へ、有効なETCカードを挿入する必要があります。

⚠警 告

ETC利用時には、必ず有効なETCカードを挿入してください。有効なETCカードが挿入されていないと開閉バーが開かず、事故の原因となります。

<ETCカードの挿入>

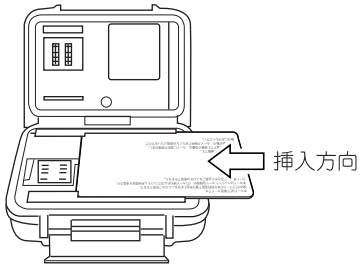
1. 車両のメインスイッチを **OFF** にします。
2. リアシート、またはシートテールカバーを外します。
3. ETC車載器本体のバックルを外し、カバー（上蓋）を開きます。



注 記

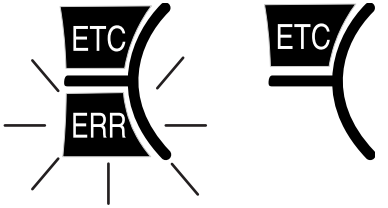
ETC カードの挿入前に、ETC 車載器のカードソケット、ETCカードのICチップ(電極)に汚れ、濡れがないことを確認してください。ETCカードの認証エラーや故障の原因となるおそれがあります。

4. ETCカードのICチップ(電極)と車載器本体のカードソケットが接触するように、スライドさせて突き当たるまで挿入します。



5. カバー（上蓋）を閉じ、バックルでカバー（上蓋）を固定します。
6. 車両のメインスイッチを **ON** にします。

7. カード認証が開始（メータのERRインジケータが点滅）され、カードが認証されたときは、メータのERRインジケータが消灯します。



⚠警 告

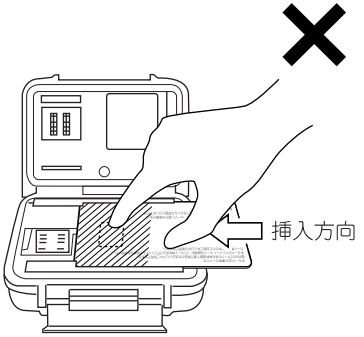
カード認証中はETCのご利用ができません。開閉バーが開かず、事故の原因となりますので、認証が完了するまでお待ちください。

注 記

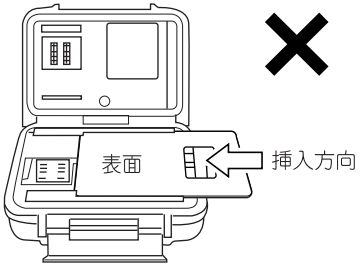
認証中にETCカードの抜き差しを行わないでください。ETCカードのデータが破損し使用できなくなることがあります。

<ETCカード挿入時のご注意>

- カード挿入時に、下図のようにICチップ(電極)付近を押さえて挿入すると、カードソケットのICカードコネクタピンが破損するおそれがあります。ETCカードの端を軽く押してゆっくりと挿入してください。



- カードの逆差し（前後、表裏）や、ETC以外のカードを挿入した場合、カードソケットのICカードコネクタピンが破損するおそれがありますので、ETCカードの向き等には十分にご注意ください。



ETC車載器

■ 料金所でのETC情報通信

<予告アンテナ/ETCカード未挿入お知らせアンテナ>

料金所の手前に設置され、車載器と通信を行い、車載器が正常に使用できることを確認する為のアンテナです。

ETC車線利用不可能情報を受け取った場合、メータのERRインジケータが点灯します。この場合、ETC専用車線はご利用できませんのでETC混在車線または一般車線をご利用ください。

アドバイス

予告アンテナ/ETCカード未挿入お知らせアンテナが設置されていない料金所もあります。

次の場合は、ETCが利用できません。

<料金所での異常通信時>

開閉バーが開かなかった場合は、後続車両による追突事故の防止などお客さまの安全を確保するため、開閉バーおよび後続車両等に十分注意を払い、安全を確認の上、開閉バーを避けて通過し、ETC車線から退避してください。
料金所で開閉バーが開かずに通過(退避)した場合は、駐停車が禁止されていない安全な場所から遅滞することなく、ご利用の道路会社に連絡してください。

<フリーフロー型料金所*のETC車線利用不可能情報の受信時>

メータのERRインジケータが点灯します。次の料金所のETC専用車線はご利用できませんので、係員のいるETC混在車線または一般車線をご利用ください。

*フリーフロー型料金所:
開閉棒のない料金所で、本線上にて経路チェックや料金収受を行う料金所

■ エラー表示について

ETC車載器への電源投入時、ETCカード挿入時、ゲートでの通信時などの処理を行った結果、エラーが発生した場合、メータのERRインジケータが点灯または点滅します。
エラーには、右の表のような異常状態が考えられます。右の表の各対処方法を実施してもメータのERRインジケータが点灯または点滅する場合は、スズキ販売店にご相談ください。

ERR インジケータ	異常状態	対処方法
点滅	セットアップ未完了	ETC車載器をセットアップしてください。
	本装置の故障	スズキ販売店にご相談ください。
点灯	ETCカード未挿入	ETCカードを挿入してください。
	ETCカード挿入異常	ETCカードの挿入状態をご確認の上、再度挿入してください。
	ETCカードのデータが読み出せない。 （データ処理異常）	＜ETCカード挿入時＞ 挿入されたETCカードのデータが読み出すことができませんでした。挿入方向をご確認の上、再度挿入してください。 ＜ETC利用時＞ 料金所にて車両の停止が案内されることがありますが、開閉バーおよび後続車両等に十分注意を払い、安全を確認の上、開閉バーを避けてETC車線から退避してください。退避後、駐停車が禁止されていない場所からETC車線を管理する高速道路会社等に遅滞することなく連絡し、指示にしたがってください。
	挿入されたカードがETCカードであると認識できませんでした。 （ETCカード異常）	正しいETCカードであること、および挿入方向をご確認の上、再度挿入してください。
	挿入されたカードがETCカードであると認識できませんでした。 （ETCカード情報の異常）	正しいETCカードであることをご確認の上、再度挿入してください。
	本装置と料金所間におけるデータ処理にエラーが発生した。 （車載器情報の異常）	開閉バーおよび後続車両等に十分注意を払い、安全を確認の上、開閉バーを避けてETC車線から退避してください。退避後、駐停車が禁止されていない場所からETC車線を管理する高速道路会社等に遅滞することなく連絡し、指示にしたがってください。
	通信異常	開閉バーおよび後続車両等に十分注意を払い、安全を確認の上、開閉バーを避けてETC車線から退避してください。退避後、駐停車が禁止されていない場所からETC車線を管理する高速道路会社等に遅滞することなく連絡し、指示にしたがってください。

ETC車載器

■ 故障かなと思ったら

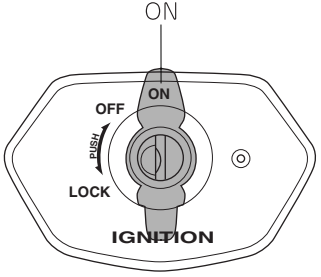
- 次の表で内容を確認し、処置してください。
- 処置しても症状が改善されないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

症状	確認すること	処置
ERRインジケータが点灯したまま	ETCカードが挿入されていますか？	ETCカードを正しく挿入してください。（挿入方向、表裏）
	ETCカードが正しく挿入されていますか？	
	ETCカードのICチップ(電極)、および車載器本体のカードソケットが汚れたり、濡れたりしていませんか？	ETCカードのICチップ(電極)を清掃ください。車載器本体のカードソケットは、<ETC車載器のお手入れ方法>P.43を参照ください。
	ETCカードが変形していませんか？	変形していないカードをご使用ください。
メータのETCインジケータとERRインジケータが同時に点滅している	−	スズキ販売店にご相談ください。
料金所で開閉バーが開かない	料金所との通信トラブル	開閉バーおよび後続車両等に十分注意を払い、安全を確認の上、開閉バーを避けて通過し、ETC車線から退避してください。退避後、駐停車が禁止されていない場所から、ETC車線を管理する高速道路会社等に遅滞することなく連絡し、指示にしたがってください。
	ETCカードの有効期限が切れていませんか？	有効なカードをご使用ください。
	アンテナの上や前方に遮蔽物がありませんか？	メータ周辺の電波を遮るものを取り除いてください。
ETCカードが入らない	ETCカードが変形していませんか？	変形していないカードをご使用ください。
	ETCカードの挿入部分に異物が入っていませんか？	異物を取り除いてください。
請求金額が違う	利用履歴の確認をETC利用照会サービスのホームページにて行なってください。http://www.etc-user.jp/	料金については、ETCカード発行会社（クレジット会社）にお問合せください。

エンジンのかけかた

■ エンジンをかける前に

1. エンジンストップスイッチが🔄になっていることを確認します。
2. メインスイッチを**ON**にします。
3. ニュートラルインジケータの点灯を確認します。点灯しないときは、チェンジペダルを操作して**ニュートラル**にします。
4. FI警告灯の消灯を確認します。



⚠警 告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

アドバイス

- **エンジン始動時の飛び出しを防ぐため、クラッチスイッチを設けています。クラッチレバーを握らないとエンジンがかかりません。**
- **スタータスイッチを押している間は、ヘッドランプが消灯します。**

＜サイドスタンドインタロック＞

- サイドスタンドの外し忘れ防止装置です。
- サイドスタンドが出ているときは、チェンジ位置**ニュートラル**でのみエンジンがかかります。
  また**ニュートラル**以外のとき、サイドスタンドを出すとエンジンが停止します。

チェンジ ＼ サイドスタンド	出ている	外している
ニュートラル	◎	◎
ニュートラル以外	×	○

◎：始動可　○：始動･走行可　×：始動･走行不可

⚠警 告

走行中サイドスタンドを操作しないでください。エンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。

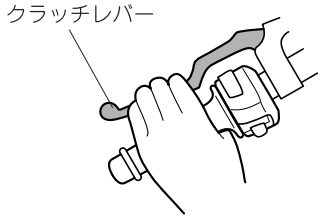
アドバイス

- **サイドスタンドを完全に外してないとき、チェンジを操作するとエンジンが停止します。**
- **サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、注油してください。**

エンジンのかけかた

■ エンジンが冷えているとき

1. クラッチレバーを握ります。



2. スロットルグリップは回さずに、スタータスイッチを押します。
- 2～3回スタータスイッチを押してもエンジンがかからないときは、スロットルグリップを1/8ほど回し、スタータスイッチを押します。

3. エンジンがかかったら、スタータスイッチ、クラッチレバーから手を放し、回転がスムーズになるまでエンジンを暖めます。

注 記

バッテリ充電などのために、長時間のアイドリングはしないでください。オーバーヒートなどによる不具合の原因となります。

注 記

エンジンを始動する前に、ギヤポジションインジケータとニュートラルインジケータの状態を確認してください。以下の状態でない場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

- ギヤポジションインジケータが“0”の表示をしているとき、ニュートラルインジケータが点灯していること。
- ギヤポジションインジケータが (1、2、3、4、5、6)いずれかの表示をしているとき、ニュートラルインジケータが消灯していること。

注 記

エンジン始動後、油圧警告灯が点灯した状態でスロットルを開けたり走行したりしないでください。エンジンに悪影響を与えるおそれがあります。

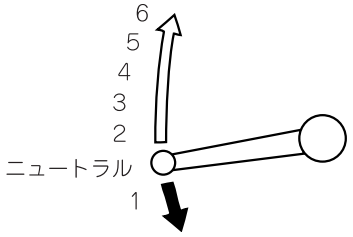
アドバイス

- スタータスイッチを押して 5 秒以内にかからないときは、バッテリ電圧を回復させるため、メインスイッチを一旦OFFにして、10秒くらい休んでください。
- 不必要な空ふかしはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジンに悪影響を与えます。
- エンジンがかかったら、スタータスイッチ、スロットルグリップを戻してください。
- 転倒した場合は、自動的にエンジンが停止するシステムが作動し、同時にFIランプが点灯します。エンジンを再始動するには、車両を起こしたあと、メインスイッチを一旦OFFにして、再びONにしてください。FIランプが消灯すると、エンジンの再始動が可能になります。FIランプが点灯したままスタータスイッチを押し続けないでください。バッテリ上がりの原因となります。

走りかた

1. サイドスタンドを外します。
2. クラッチレバーを握り、チェンジペダルを操作してギヤを1速に入れ、静かに発進します。
3. 車のスピードに応じてギヤを切り替えます。ギヤチェンジは6段リターン式です。ギヤチェンジは、スロットルグリップを一旦戻して、クラッチレバーを完全に握ってから行ないます。チェンジ操作は、つま先で軽く行ない、ペダルにコツンと感じるまで確実に行なってください。

ギヤ	適応速度（km/h）
1速	0 ～ 40
2速	15 ～ 60
3速	30 ～ 80
4速	40 ～
5速	45 ～
6速	50 ～



⚠警 告

走行中にサイドスタンドを操作しないでください。エンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。

注 記

- **無理なチェンジ操作をしたり、チェンジペダルに足を乗せたまま走行すると、チェンジ機構の損傷の原因となります。**
- **エンジンが異常な高温になると、クラッチの切れが悪くなることがあります。安全な場所で、エンジンを停止して冷やしてください。**

アドバイス

- **チェンジ操作はコツンと感じるまで確実に行ってください。**
- **むやみにエンジンの回転を上げないでください。エンジン寿命に悪影響を与えます。**
- **スピードは控えめにしましょう。**
- **走行中に異常を感じたら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。**

「感情的な走りはいけません
心のブレーキを忘れずに！」

走りかた

＜シフトダウン＞

追越しをするときなど、強力な加速が必要なときは、シフトダウンすると加速力が得られます。シフトダウンは各速5,000rpm以下で行ってください。

⚠警 告

あまり高い回転数でシフトダウンを行うと、エンジン回転が上がりすぎてエンジン、ミッションが故障したり、走行安定性を失い、尻振りなどの原因となります。

＜ならし運転＞

ならし運転を行うと、お車の寿命を延ばします。

- 最初の1,000kmを走行するまでは、エンジン回転5,500rpm以下で走行してください。
- 新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。
  倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。
- 不必要な空ふかしや急加速、急減速、急ハンドル、急ブレーキは避けてください。

ブレーキの使いかた

ブレーキは前後同時に使い、エンジンブレーキを併用します。

＜エンジンブレーキ＞

スロットルグリップを戻すことによってエンジンブレーキがはたらきます。さらに強力なエンジンブレーキを必要とするときは、6速→5速…とシフトダウンします。

⚠警 告

- **急激なシフトダウンは走行安定性を失い、尻振りの原因となる事があります。速度に合わせたギヤを選んでください。**
- **フロントブレーキまたはリヤブレーキのみ使うと、車が横すべりして転倒するおそれがあります。**
- **濡れた路面や雪道、凍った路面は、乾いた路面より制動距離が長くなります。早めにブレーキをかけてください。**
- **長い下り坂などでは、エンジンブレーキを併用し、連続的なブレーキ操作は避けてください。ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。**
- **不必要な急ブレーキは避けましょう。急ブレーキは横すべりや転倒の原因となります。**

注 記

上り坂などで、アクセル操作やクラッチレバー操作でバランスを取るなどして車を停止させようとしないでください。クラッチが過熱し、故障の原因となります。

♪アドバイス

- **濡れた路面ではスリップしやすいので急激なブレーキは避け、スピードをおとして余裕をもったブレーキ操作をしましょう。**
- **洗車後や水たまりを走行後は、ブレーキのききが悪くなる場合があります。ききが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。**

＜ABS：アンチロックブレーキシステム＞

ABSは直進時に急ブレーキをかけたとき、車輪がロックしないよう制御する装置です。ブレーキの操作方法は、通常の車と同様にブレーキレバーおよびブレーキペダルで行います。

アドバイス

- ABS は制動距離を短くするものではありません。濡れた路面や雪道、でこぼこ路や下り坂などでは、ABSが付いていない車より制動距離が長くなる場合があります。またABSが付いていない車と同様に路面がすべりやすくなるほど制動距離が長くなります。
- コーナーリング中にブレーキをかけた場合に起こる横すべりは制御できません。コーナーリング中はブレーキをかけない方が安全です。
- ブレーキをかけたときにブレーキレバーおよびブレーキペダルに反動が生じることがあります。これは異常ではありませんので、そのままブレーキを作動してください。
- 車速約10km/h以下ではABSは作動しません。
- バッテリがあがっている場合も、ABSは作動しません。
- 必ず指定タイヤをお使いください。ABSのコンピュータは、車輪の回転速度を検知しています。サイズの異なるタイヤは車輪の回転速度を変え、ABSが正常に機能しなくなることがあります。

メ　モ

日常点検、定期点検

お車を快適に使用し、事故を未然に防ぐため、道路運送車両法で日常点検と定期点検を行うことが義務づけられています。必ず実施してください。

＜日常点検＞

日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。
この車に適用される日常点検の項目は次のページをご覧ください。

＜定期点検＞

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。

⚠警告

日常点検や定期点検を怠ると、事故や故障の原因となることがあります。

アドバイス

- **お車を使用しないときも定期点検は実施してください。**
- **お車を長期間休ませた後に使い始めるときは入念に点検することが大切です。**

- 定期点検結果は、別冊「メンテナンスノート」に記録する必要があります。ご自身で点検できない項目については、スズキ販売店で点検を受けて記録してください。
- 点検内容など、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“日常点検の方法”“定期点検の解説”をご覧ください。
- 初期（1か月）点検はお買いあげいただいたスズキ販売店が無料で実施します。ただし他店では有料となります。また油脂代、部品代およびその交換工賃は有料です。

＜継続検査（車検）＞

小型自動車（251cm^{3}以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。期間満了前に必ずお受けください。

⚠警告

点検は、安全に十分注意してください。

- **平坦な足場のしっかりした場所で、サイドスタンドを立ててください。**
- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージの中や風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。**
- **点検、整備を行うときは火気厳禁です。**
- **走行して点検する場合は、周囲の交通事情に十分注意してください。**
- **異常が認められたときは、ご自身またはスズキ販売店で確実に整備してからお乗りください。**

日常点検項目

ブレーキ
- ブレーキレバー、ブレーキペダルの遊び
- きき具合
- ブレーキ液の量

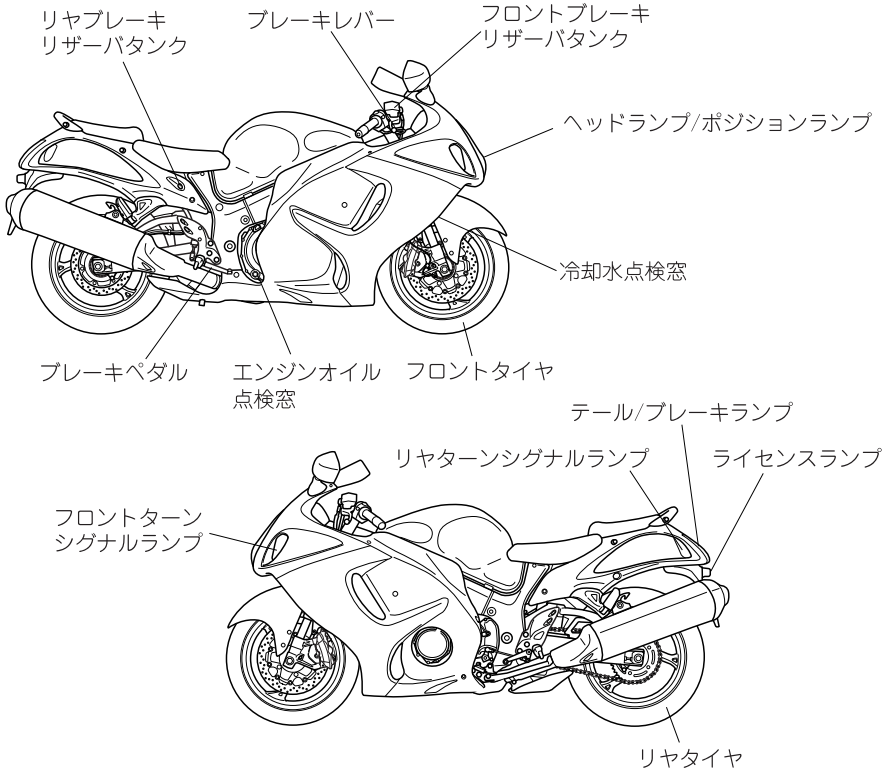
タイヤ
- 空気圧
- 亀裂、損傷、異物、異常摩耗
- 溝の深さ

エンジン
- エンジンオイルの量
- 冷却水の量
- かかり具合、異音
- 低速、加速の状態

チェーン
※ゆるみ

灯火装置、方向指示器（ランプ類）
運行において異常が認められた箇所
※印の点検は、メーカー指定点検を示します。

＜日常点検・部品配置＞



簡単な整備

ここでは、通常行われることが多い簡単な点検、整備の方法を説明しています。

⚠警 告

- **整備は、安全のためご自身の知識・技量の範囲で行ってください。難しいことはスズキ販売店にご相談ください。**
- **平坦な足場のしっかりした場所で、サイドスタンドを立ててください。**
- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。**
- **点検、整備を行うときは火気厳禁です。**

注 記

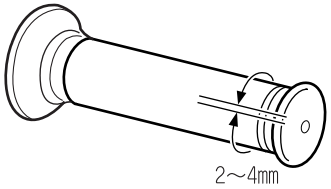
- **整備はエンジンを停止し、キーを抜いた状態で行ってください。**
- **適切な工具を使用しましょう。**
- **スイッチにグリスを塗ったり、油を注したりしないでください。故障の原因となります。**

アドバイス

油脂類の廃液は、法令で適切な処理を行うことが義務づけられています。廃液の処理はスズキ販売店にご相談ください。

スロットルケーブル

■ スロットルケーブルの遊びの点検

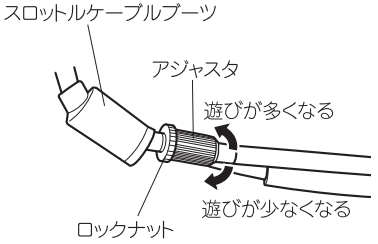


スロットルグリップを操作し、スロットルケーブルの遊びの量が、2～4mmの範囲内にあるかを確認します。遊びの量が範囲から外れている場合は、調整してください。

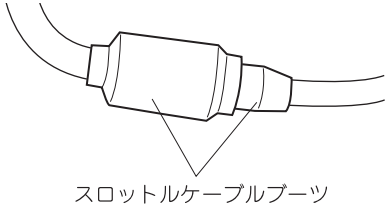
■ スロットルケーブルの遊びの調整

アジャスタにより遊びを調整します。

1. スロットルケーブルブーツをずらし、ロックナットをゆるめます。アジャスタを右に回すと遊びが少なく、左に回すと遊びが多くなります。



2. 調整後は、スロットルケーブルブーツをかぶせてください。



ブレーキ

■ ブレーキ液の量の点検

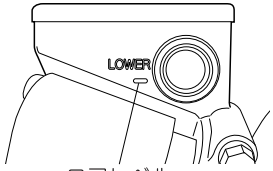
平坦地で車体を垂直にし、ハンドルを直進状態にして、リザーバタンクの液面がロアレベルより上にあるかを点検します。
液面がロアレベル以下の場合は、ブレーキパッドの摩耗点検を行ってください。

⚠警 告

ブレーキ液は、安全のため2年毎の交換をしてください。

指定ブレーキ液：
スズキブレーキフルードDOT4
（JIS BF-4）

<フロントブレーキ>



ロアレベル

運転席から見たところ

<リヤブレーキ>



右側フレームカバーから見たところ

⚠警 告

- **ブレーキ液の減りが著しいときはブレーキ系統の液漏れが考えられます。スズキ販売店で点検を受けてください。**
- **ブレーキ液を取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。**

注 記

- **化学変化を防止するため、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。**
- **リザーバタンク内にゴミや水などが混入しないよう十分注意してください。**
- **ブレーキ液の入れ過ぎに注意してください。あふれ出るおそれがあります。**

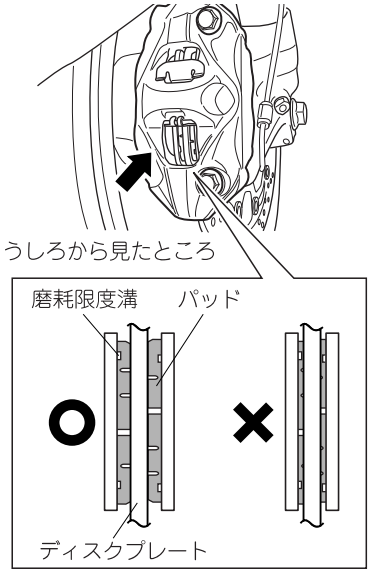
アドバイス

- **ブレーキ液は塗装面やプラスチックおよびゴム類を損傷させます。付着したら、すぐにふき取ってください。**
- **ブレーキ液面はブレーキパッドの摩耗と共に、下がっていきます。**

■ ブレーキパッドの摩耗の点検

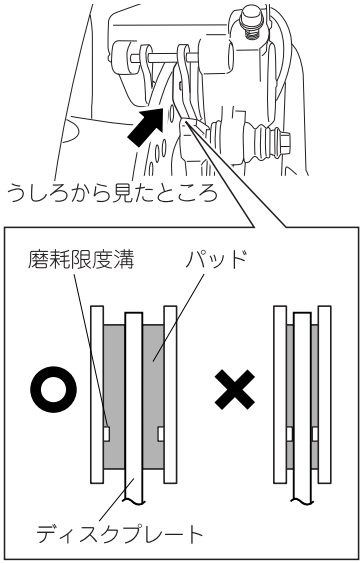
<フロントブレーキ>

ブレーキキャリパをのぞいて、パッドの摩耗を点検します。
摩耗限度溝がディスクプレートまで達したら（パッドの厚さが約1mmになったら）、パッドを交換してください。



<リヤブレーキ>

ブレーキキャリパをのぞいて、パッドの摩耗を点検します。
摩耗限度溝がディスクプレートまで達したら（パッドの厚さが約1mmになったら）、パッドを交換してください。



▲警 告

ブレーキパッド交換後、ブレーキレバーまたはブレーキペダルを、正規のタッチになるまで、数回ストロークしてください。

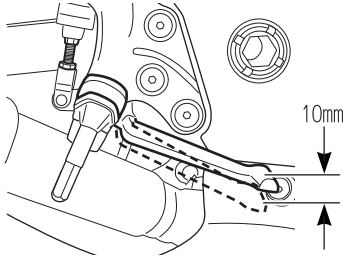
アドバイス

- **ブレーキパッドは左右同時に交換してください。**
- **新しいブレーキパッドは、きき具合が違います。慎重な運転を心がけてください。**
- **ブレーキパッドの交換は、スズキ販売店にご相談ください。**

ブレーキ

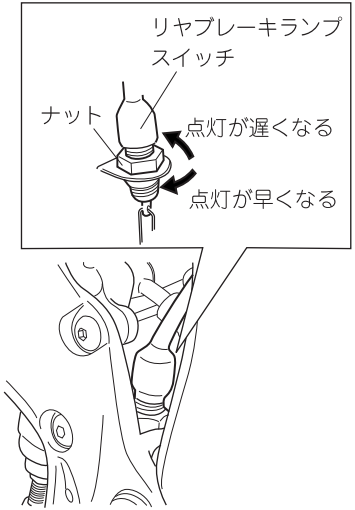
■ リヤブレーキランプスイッチの点検

リヤブレーキペダルを10mm程度踏み込んだときに、ブレーキランプが点灯を始めるか点検します。
点灯の開始が早い場合や遅い場合は、リヤブレーキランプスイッチを調整してください。



■ リヤブレーキランプスイッチの調整

リヤブレーキランプスイッチ本体が回らないように指で固定し、ナットを回して調整します。
ナットを右に回すとブレーキランプの点灯開始が早くなり、左に回すと遅くなります。



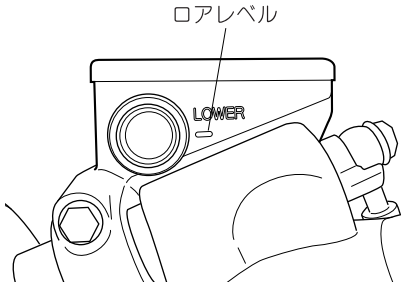
注記

調整をするときにリヤブレーキランプスイッチ本体を回さないでください。配線の断線の原因となることがあります。

クラッチ

■ クラッチ液の量の点検

平坦地で車体を垂直にします。ハンドルを直進状態にして、リザーバタンクの液面がロアレベルより上にあるかを点検します。ロアレベル以下の場合は、クラッチ液を補給してください。

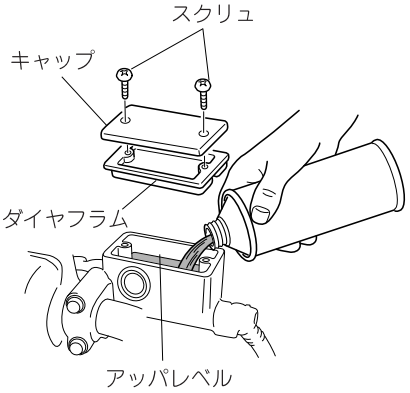


▲注 意

エンジンが異常な高温になると、クラッチの切れが悪くなることがあります。安全な場所で、エンジンを停止して冷やしてください。

■ クラッチ液の補給

1. リザーバタンク周辺の汚れをふき取ります。
2. スクリュを外し、キャップ、ダイヤフラムを取り外します。
3. リザーバタンクのアッパレベルまでクラッチ液を補給します。
   指定クラッチ液：
   スズキブレーキフルードDOT4（JIS BF-4）
4. ダイヤフラムの噛み込みに注意して、キャップを確実に取り付けます。



▲警 告

クラッチ液を取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。

注 記

- **リザーバタンク内にゴミや水などが混入しないよう注意してください。**
- **化学変化を防止するため、銘柄の異なるクラッチ液を使用しないでください。**
- **アッパレベルより上まで補給しないでください。クラッチ液がにじみ出るおそれがあります。**

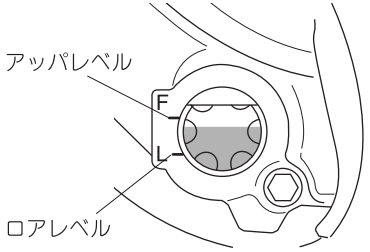
アドバイス

- **クラッチ液は塗装面やプラスチックおよびゴム類を損傷させます。付着したらすぐにふき取ってください。**
- **クラッチ液は定期的な交換をおすすめします。**
  交換時期：初回3年、以降2年ごと

エンジンオイル

■ エンジンオイル量の点検

1. 平坦地でエンジンを3分間アイドリング運転し、エンジンを停止します。
2. 車体を垂直にして、3分後オイルが点検窓のアッパレベルとロアレベルの間にあるかを点検します。
   オイル量がロアレベルに近い場合は、アッパレベルまで補給します。

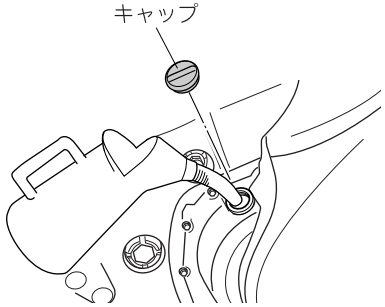


⚠注 意

エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

■ エンジンオイルの補給

1. 平坦地でエンジンを3分間アイドリング運転し、エンジンを停止します。
2. 3分後、オイル注入口キャップを外します。
3. 車体を垂直にして、アッパレベルまでオイルを補給します。
4. キャップを確実に取り付けます。



推奨オイル：スズキ純正オイル

規格 / オイル	SAE	API
エクスターオイル TYPE 04 MA	10W-40	SJ
エクスターオイル スーパーデラックス	10W-40	SE

推奨オイルが入手できない場合は、次の規格を満足するエンジンオイルを使用してください。

SAE	API	JASO
10W-40	SG, SH, SJ, SL	MA

エンジンオイル交換時期：
初回1か月または1,000km
以降6,000kmまたは1年ごと
オイルフィルタ交換時期：
初回1か月または1,000km
以降18,000kmごと

⚠警 告

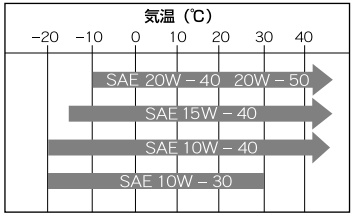
エンジンオイルを取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。

注 記

- 摩擦低減剤を必要以上に多く含むエンジンオイルは使用しないでください。また摩擦を低減する添加物は加えないでください。クラッチは、エンジンオイルに浸されています。摩擦低減剤を含むエンジンオイルはクラッチのすべりなどの原因となる場合があります。
- 銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使用しないでください。変質して故障の原因となることがあります。
- 作業前に オイルジョッキの内部等にほこりや泥、異物等が付着していないことを確認し、オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。

アドバイス

- SAE10W-40 のオイルが入手できない場合は、次の表を参考に使用環境に合うオイルを選んでください。

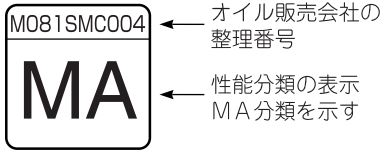


- オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。
- オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。

アドバイス

JASO規格について

- JASO T903は、4サイクル二輪車のエンジンオイルを選ぶ際の指針となる規格です。
- 二輪車は四輪車と異なりエンジンオイルがクラッチやトランスミッションも潤滑しています。JASO T903はこれらクラッチやトランスミッションが要求するオイル性能について規定しています。
- MAとMBの分類があり、本規格に適合するエンジンオイルの容器には、次の表示があります。



ＪＡＳＯ Ｔ９０３ 適合品
本ＭＡ性能の品質保証者
スズキ株式会社

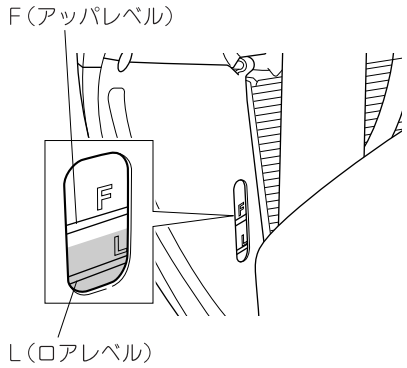
冷却水

■ 冷却水の量の点検

1. 平坦地でサイドスタンドを立てます。
2. 車体を垂直にして、冷却水がリザーバタンクのF(アッパレベル)とL(ロアレベル)の間にあるかを点検します。冷却水が L(ロアレベル)に近い場合は、F(アッパレベル)まで補給します。

アドバイス

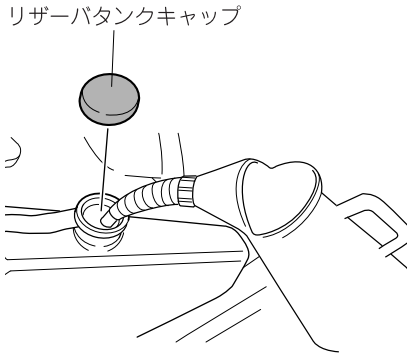
冷却水の量の点検は、エンジンが冷えたときに行ないます。



■ 冷却水の補給

1. 右側のフェアリング内側にリザーバタンクがあります。
2. リザーバタンクキャップを外します。
3. アッパレベルまで冷却水を補給します。

   指定液：スズキスーパーロングライフクーラントまたはスズキクーラント



⚠警 告

冷却水は、人体に有害です。冷却水を取り扱うときは、十分注意してください。

- **冷却水を補給するときは、換気のよい場所で行なってください。**
- **飲んだ場合は、無理に吐かずに、すみやかに医師の診察を受けてください。**
- **目に入った場合は、きれいな流水で十分に洗ったあと、医師の診察を受けてください。**
- **皮膚や衣服に付いた場合は、水と石鹸を使って洗い落としてください。**

⚠警 告

- **クーラントを取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。**
- **冷却水の補給はリザーバタンクキャップから行い、ラジエータキャップは外さないでください。**
- **エンジンが熱いときにラジエータキャップを外すと、冷却水が噴き出し、やけどを負うおそれがあります。**

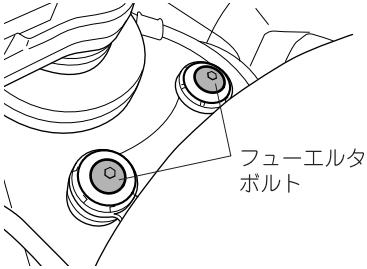
アドバイス

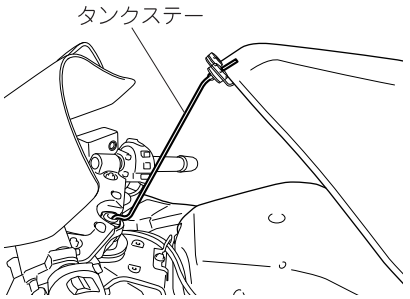
- 冷却水の減りが著しいときはラジエータ本体、ホースなどからの漏れが考えられます。スズキ販売店で点検を受けてください。
- リザーバタンクが空の場合は、ラジエータ内の冷却水も不足している可能性があります。
- 補給する水は水道水を使用し、井戸水や天然水は使用しないでください。
- 冷却水の交換はスズキ販売店にご相談ください。
- 冷却水交換時はスズキクーラントと水道水を1：1で混合したものを使用してください。
- スズキスーパーロングライフクーラントは水で希釈する必要はありません。

フューエルタンク

エアクリーナ点検時は、フューエルタンクを持ち上げます。

1. 平坦地でサイドスタンドを立てます。
2. フロントシートを外します。
   ☞29ページの「フロントシートの取り外し」参照
3. フューエルタンクボルトを外します。フューエルタンク前側を持ち上げ、タンクステーをステアリングシャフトの穴とタンク締付部に差し込みフューエルタンクを固定します。





アドバイス

タンクステーは、車両とは別に購入していただく必要があります。

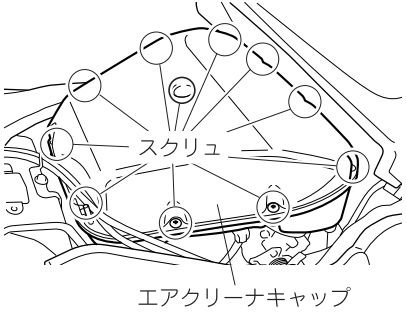
エアクリーナ

■ エアクリーナエレメントの点検

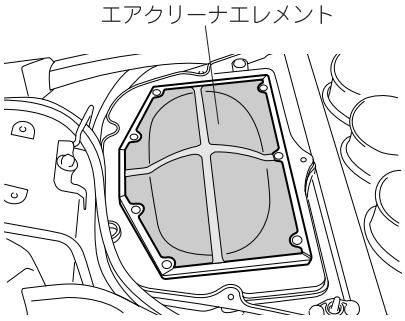
1年毎に点検してください。ほこりが多い場所を走行する機会が多い場合は、6か月毎に点検してください。

エアクリーナ点検時は、フューエルタンクを持ち上げます。
☞65ページの「フューエルタンク」参照

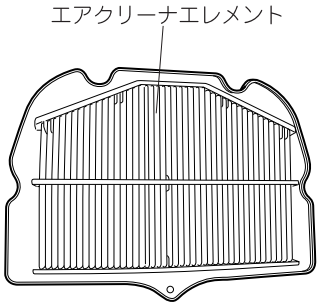
1. スクリュ（11か所）を外し、エアクリーナキャップを取り外します。



2. エアクリーナエレメントを取り外します。



3. エアクリーナエレメントを目視により点検します。汚れ、詰まりや損傷がある場合は、新品と交換します。



アドバイス

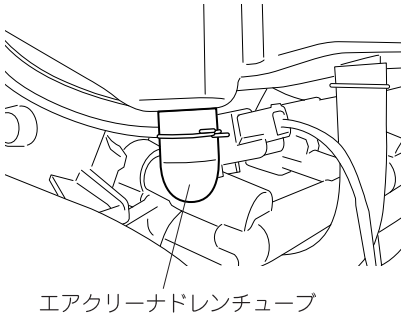
エアクリーナエレメントが破損しているときは交換してください。

- **エアクリーナエレメントおよびエアクリーナキャップの取り付けが不完全な場合、ゴミやほこりを吸入しエンジンに悪影響を与えます。**
- **洗車時、エアクリーナエレメントに水がかからないようにしてください。また、エアクリーナボックス内に水が入らないようにしてください。**

■ エアクリーナドレンチューブの清掃

1年毎に、エアクリーナドレンチューブに、水やオイルがたまっていないか点検してください。汚れや水がたまっている場合は、エアクリーナドレンチューブを清掃します。

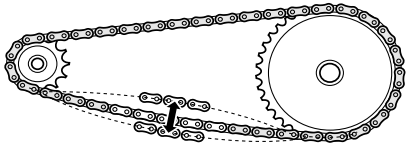
1. エアクリーナドレンチューブを外し、エアクリーナドレンチューブにたまっている汚れや水を取り除きます。
2. エアクリーナドレンチューブを確実に取り付けます。



ドライブチェーン

■ ゆるみの点検

前後スプロケットの中央を手で上下に動かし、チェーンのゆるみが規定の範囲内にあるかを点検します。
規定の範囲を越えている場合は、調整してください。



20～30mm

また後輪を手でゆっくり回し、チェーンがなめらかに回転するかを点検します。回転がなめらかでない場合は、清掃し、注油してください。

⚠警 告

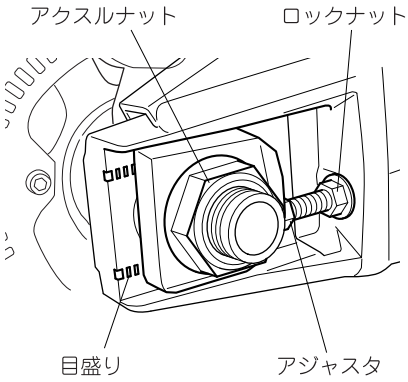
ドライブチェーンの点検、調整、清掃、注油は、必ずエンジンを止めてから行なってください。

アドバイス

ドライブチェーンの調整などは、スズキ販売店にご相談ください。

■ ゆるみの調整

1. アクスルナットをゆるめます。
2. ロックナットをゆるめ、アジャスタを回し、チェーンのゆるみを調整します。
3. ロックナットを締め付けます。
4. トルクレンチを使用して、アクスルナットを規定トルクで締め付けます。
   規定トルク：100N·m



アドバイス

- **アクスルナットの締め付けは、トルクレンチを使用してください。トルクレンチが無い場合は、スズキ販売店にご相談ください。**
- **左右同じ目盛りに合わせてください。**

■ 清掃、注油

1. ドライブチェーンにほこりや泥などが付着しているときは汚れを取り除きます。シールリングを傷付けないように注意してください。
2. 洗浄はシールチェーン専用クリーナまたは、水や中性洗剤などで行います。
   推奨クリーナ：
   スズキアルミホイール&チェーンクリーナ

注 記

不適切な清掃をすると、ドライブチェーンのシールリングに傷がついたりドライブチェーンが壊れたりすることがあります。

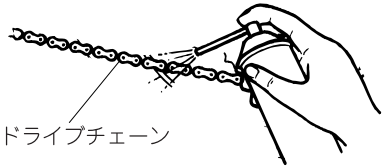
- **シンナー、灯油、ガソリン等の揮発性溶剤を使用しないでください。**
- **スチーム洗車機を使用しないでください。**
- **ワイヤーブラシを使用しないでください。**

3. 柔らかいブラシを使用します。ブラシは柔らかくてもシールを痛める場合があるため、シールリングを傷付けないよう注意してください。
4. 水や洗浄剤を綺麗にふき取ります。
5. 注油は２輪シールチェーン専用オイルもしくは粘度の高いオイル（#80～90）を使用します。
   推奨オイル：スズキチェーンオイルR

注 記

ドライブチェーンオイルの中にシールリングに損傷を与える溶剤や添加物が含まれている場合があります。

シールリング付きドライブチェーン専用オイルを使用してください。



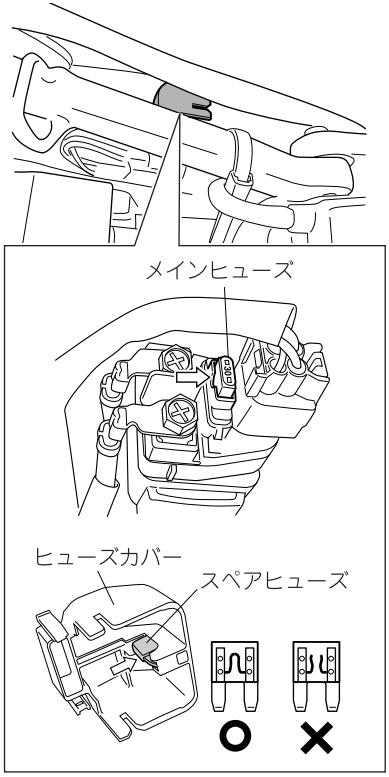
6. オイルがチェーン各部によく行きわたるように、チェーンの手前と奥の両側に注油します。
7. 全周に注油した後、外側の余分なチェーンオイルを乾いたウェスでふき取ります。

ヒューズ

■ ヒューズの点検

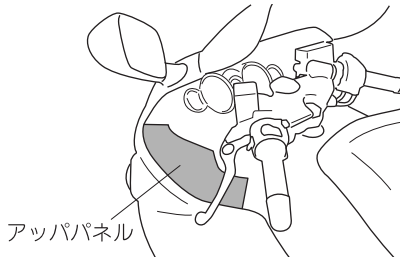
<メインヒューズ>

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. フロントシートを外します。
   ☞29ページの「フロントシートの取り外し」参照
3. 左側フレームカバーの内側にメインヒューズがあります。ヒューズカバーを外し、ヒューズを引き出して点検します。
4. 切れている場合は原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

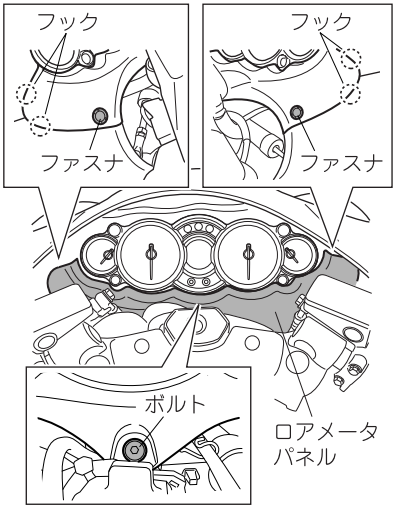


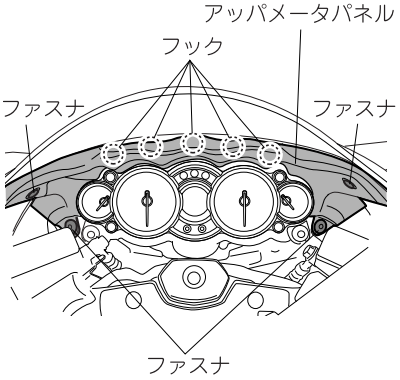
<ヒューズ、ABSヒューズ>

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. 左側アッパパネルの内側にヒューズ、ABSヒューズがあります。アッパパネルを以下の手順で外します。

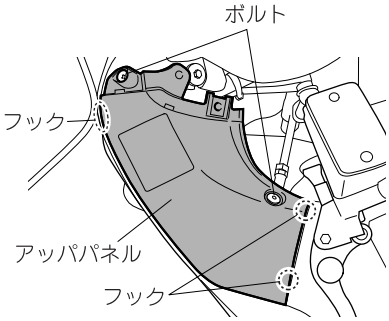


3. ボルト、ファスナを外します。フックを外し、ロアメータパネル、アッパメータパネルの順に外します。



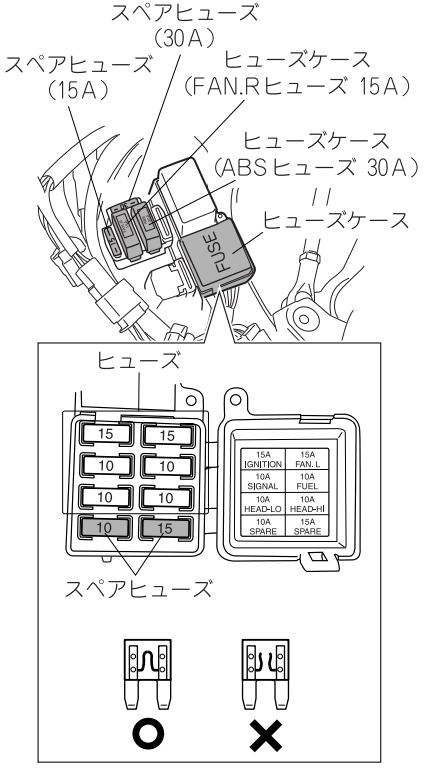


4. ボルト、フックを外し、左側アッパパネルを外します。



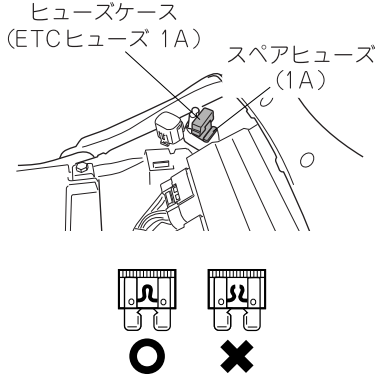
5. ヒューズケースを開けます。ヒューズを引き出して点検します。
6. 切れている場合は原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

ヒューズ



<ETCヒューズ>

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. フロントシートを外します。
   ☞29ページの「フロントシートの取り外し」参照
3. ヒューズケースを開けます。
4. ヒューズを引き出して点検します。
5. 切れている場合は原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。



⚠警 告

指定容量を超えるヒューズは、配線の過熱、焼損の原因となるので使用しないでください。針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

注 記

- **電装品類（ランプ、計器など）を取り付けるときは、スズキ純正用品をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時、ヒューズのまわりに水を強くふきつけることは避けてください。**

アドバイス

ヒューズが切れたときは原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

バッテリ

■ バッテリの点検

この車は密閉式のメンテナンスフリーバッテリを使用しています。バッテリ液の点検、補給は必要ありません。
ターミナル部に汚れや腐食がある場合は、取り外して清掃してください。

⚠警 告

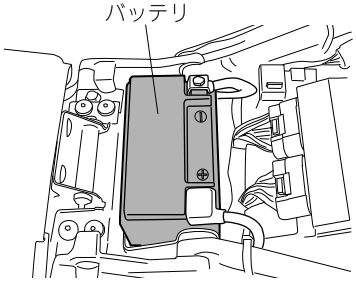
- **バッテリを取り扱う前に、バッテリに貼付されている注意文をよく読んでください。**
- **バッテリには、希硫酸が含まれています。希硫酸が身体に付着すると重いやけどを負うおそれがあります。**
- **バッテリは引火性ガスを発生します。火気を近づけないでください。**
- **バッテリは、子供の手の届くところに置かないでください。**
- **乾いた布でバッテリをふかないでください。静電気が発生して引火するおそれがあります。**

＜バッテリ液が付着した場合は・・・＞

- 目に入った場合は、すぐに多量の水で15分以上洗い医師の診察を受けてください。
- 皮膚や衣服に付いた場合は、衣服を脱ぎ多量の水で洗い流してください。
- 万一飲み込んだ場合は、すぐに多量の水を飲んで医師の診察を受けてください。

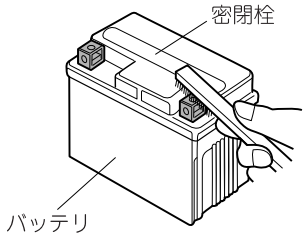
■ バッテリターミナル部の清掃

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. フロントシートを外します。
☞29ページの「フロントシートの取り外し」参照
3. (−)側バッテリコード、(+)側バッテリコードの順に外し、バッテリを取り出します。



バッテリ

4. ターミナル部に白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いでふきます。腐食が著しいときは、ワイヤブラシかサンドペーパで磨いてください。
5. 清掃後、ターミナル部にグリスを薄く塗り、バッテリを取り付けます。



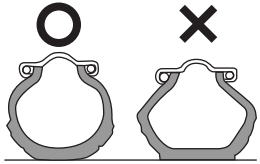
アドバイス

- **バッテリコードを外すときは、必ずメインスイッチをOFFにし、(ー)側を先に外してください。取り付けるときは(+)側を先に取り付けます。**
- **ターミナル部にゆるみが生じないように締め付け、(+)側ターミナルカバーを確実に取り付けてください。**
- **密閉栓は取り外さないでください。**
- **バッテリを交換するときは、同一型式のメンテナンスフリーバッテリと交換してください。**
- **長期間使用しない場合は、3か月ごとに補充電してください。詳細はP.81のアドバイスをご覧ください。**

タイヤ

■ 空気圧の点検

タイヤが冷えているときにタイヤゲージを使用して、規定の空気圧であるかを点検します。規定値を外れている場合は、適正な空気圧に調整してください。



タイヤ空気圧

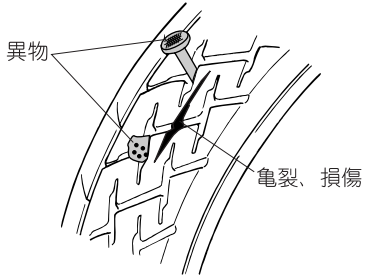
1人乗車時	前	290kPa
	後	290kPa
2人乗車時	前	290kPa
	後	290kPa

⚠警 告

不適正な空気圧での使用や、すり減ったタイヤの使用は、転倒事故などの原因となります。適正な空気圧を守り、すり減ったなら交換してください。

■ 亀裂、損傷、異物の点検

タイヤの接地面および側面の全周に、亀裂や損傷がないかを確認します。
また、釘や石などの異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを確認します。



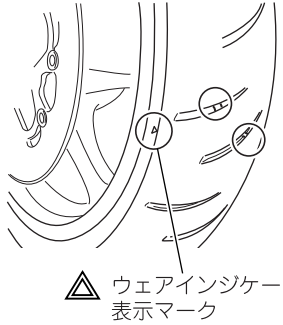
■ 異常磨耗の点検

タイヤの接地面が、異常に磨耗していないかを確認します。異常に磨耗している場合は、スズキ販売店にご相談ください。



■ 溝の深さの点検

ウエアインジケータがあらわれていないかを点検します。
ウエアインジケータがあらわれたときは、タイヤを交換してください。



アドバイス

コーナリングや操縦安定性などの安全走行のために、早めのタイヤ交換をおすすめします。溝の深さは、前1.6mm、後2.0mm以上が望ましいです。

タイヤ

■ タイヤの交換

タイヤを交換する場合は、必ず指定タイヤを使用してください。

指定タイヤ

前	サイズ	120/70ZR17M/C（58W）
	種類	BRIDGESTONE： BT015F RADIAL M
後	サイズ	190/50ZR17M/C（73W）
	種類	BRIDGESTONE： BT015R RADIAL M

⚠警 告

指定外のタイヤの使用は、安全走行に悪影響を与える場合があります。必ず指定タイヤを取り付けてください。

ｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。

メ モ

お車の手入れ

洗車

お車を長持ちさせるため、常に清掃をしましょう。泥道やほこりの多いところを走行した後は、すみずみまで洗車しましょう。異常などが早く発見でき、故障予防にもなります。海水に含まれる塩分や融雪剤は金属をサビやすくします。海岸付近や融雪剤を使用した道路を走行した後は、必ず洗車してください。

1. 冷水をかけながら、スポンジまたは柔らかい布で汚れを落とします。
2. ひどい汚れは、中性洗剤を使用して水で洗い流します。
3. 乾いた柔らかい布で、水分をふき取ります。

注 記

- **洗車はエンジンが冷えているときに行ってください。**
- **高圧洗車機やスチーム洗車機は使用しないでください。可動部や電装部品の作動不良や故障の原因となる事があります。**
- **洗車時、マフラ、エアクリーナや電装品に水が入らないよう注意してください。水が入ると始動不良やサビ発生の原因となります。**
- **ラジエータに高圧の水をかけないでください。冷却フィンが損傷するおそれがあります。**
- **洗車後はブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。この場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、効きが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。**

アドバイス

下記の場所には水を噴射したり、流したりしないでください。

- **メインスイッチ**
- **スパークプラグ**
- **フューエルタンクキャップ**
- **フューエルインジェクションシステム**
- **ブレーキマスターシリンダ**
- **クラッチマスターシリンダ**
- **スロットルケーブルのブーツ**

アドバイス

- **洗車後や雨天走行後にヘッドランプのレンズが曇ることがあります。この場合は、ヘッドランプを点灯することで曇りは徐々に消えます。バッテリ上がりを防ぐために、エンジンを掛けながらヘッドランプを点灯させてください。**
- **海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに冷水で水洗いをして乾いた布で水分をふき取ってください。温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。**

メータディスプレイ

メータディスプレイを清掃するときは、水で濡らした柔らかい布でやさしくふいてください。

注 記

乾いた布で強くふくと、ディスプレイに傷がつくおそれがあります。水で濡らした柔らかい布を使いメータディスプレイを清掃してください。

アルミホイール

アルミホイールは、塩分などの汚れを嫌います。アルミホイールの美しさを保つため、定期的に（週に一度くらい）清掃しましょう。

1. 中性洗剤をスポンジに含ませて、汚れを落とします。
2. 十分に水洗いをして、乾いた布で水分をふき取ります。

アドバイス

- **アルミホイールは、傷がつきやすいため、みがき粉、硬いブラシや金属タワシなどの硬いものでこすったり、当てたりしないでください。**
- **海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに冷水で水洗いをして乾いた布で水分をふき取ってください。温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。**

エキゾーストパイプ

ステンレス鋼のエキゾーストパイプは、油脂などの汚れにより焼けむらが生じることがあります。

- 汚れは、ステンレス用の台所洗剤を使って、布かスポンジで洗浄ののち、十分に水洗いし乾いた布で水分をふき取ります。
- 焼けむらが生じた場合は、細目のコンパウンドで磨いてから、汚れを落とします。

⚠注 意

エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

アドバイス

排気熱によってエキゾーストパイプは変色しますが、機能上問題はありません。

フェアリング

フェアリング、スクリーンは傷つきやすいので中性洗剤または石けん水で洗った後、水洗いし柔らかい布でふいてください。

⚠警 告

フェアリングとハンドルの間に物を置かないでください。ハンドル操作に悪影響を与えます。

注 記

ブレーキ液、ガソリン、ベンゼンなどの化学物質がフェアリング、スクリーン、ヘッドランプなどのプラスチック部品にかかると亀裂などが発生する場合があります。

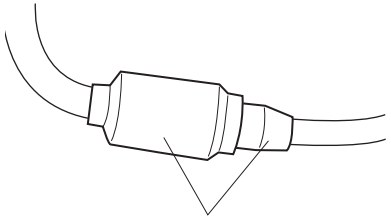
つや消し塗装

つや消し塗装の車両は、次の注意事項をお守りください。

- コンパウンド入りワックスなどで、塗装面や樹脂部品を強く磨くと色むらが生じる場合があります。
- 固形ワックスは、ふき取りが困難になることがあります。
- 使用中の摩擦や表面を擦り過ぎたり強く磨くと、つや消し表面が変化することがあります。

スロットルケーブルブーツ

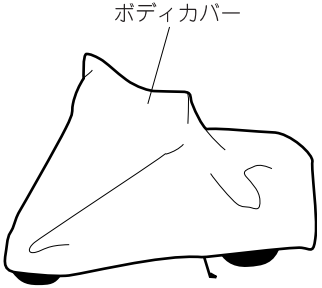
スロットルケーブルには、ブーツが取り付けられています。ブーツが確実に取り付けられていることを確認してください。洗車時には、ブーツに直接水をかけないようにしてください。ブーツが汚れている場合は、水で濡らした布でふき取ってください。



スロットルケーブルブーツ

保管のしかた

できるだけご自宅の敷地内に保管し、屋外の場合は、ボディカバーをかけるようにしてください。



アドバイス

ボディカバーは、エンジンやマフラが冷えてからかけてください。

アドバイス

長期間乗らない場合は、次の事項をお守りください。

- **保管前に各部のワックスがけを行ってください。サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリは、自己放電と電気漏れを少なくするため、車から外し、完全補充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。車に積んだまま保存する場合は(－)ターミナルを外してください。**

※補充電については、スズキ販売店にご相談ください。

環境を保護するために

将来、車両を廃棄する場合や使用済みバッテリ、エンジンオイルなどを廃棄する場合は、地球環境を守るため、むやみに捨てないでください。お車を廃棄する場合はお近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。

◆ 廃棄二輪取扱店とは

廃棄二輪取扱店とは（社）全国軽自動車協会連合会の加盟販売店で廃棄二輪取扱店として登録されている、廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。
廃棄二輪取扱店には「廃棄二輪取扱店の証」が表示されています。

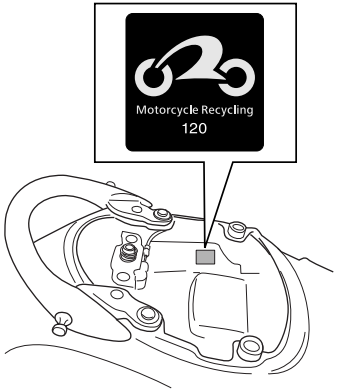


廃棄二輪取扱店の証

環境を保護するために

◆ 二輪車リサイクルマークとリサイクル料金

この車には二輪車リサイクルマークが貼り付けられています。二輪車リサイクルマークが貼り付けられている二輪車は、適正な処理を行い再資源化するための、リサイクル費用がメーカー希望小売価格および車両本体価格に含まれています。お車を廃棄する場合には、リサイクル料金はいただきません。ただしお車の運搬、収集費用はお客様のご負担となります。運搬、収集費用につきましては、お近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。



◆ 二輪車リサイクルマークの取扱い

お車を廃棄する場合には、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体からはがさないでください。紛失、破損による再発行および部品販売の取扱いはありません。
リサイクルマーク対象車両かどうか不明の場合は、下記のホームページおよびコールセンターでご確認ください。

◆ 廃棄二輪車に関するお問合せについて

廃棄二輪車に関するお問合せは、お近くの廃棄二輪取扱店または下記までお問合せください。
（財）自動車リサイクル促進センター
ホームページ：http://www.jarc.or.jp/

メ モ

サービスデータ

主要諸元

項目		諸元
型式		EBL-GX72B
長さ		2,190mm
幅		735mm
高さ		1,165mm
軸距		1,480mm
最低地上高		120mm
車両重量		266kg
乗車定員		2人
タイヤサイズ	前	120/70ZR17 M/C (58W)
	後	190/50ZR17 M/C (73W)
最小回転半径		3.3m
エンジン形式		4サイクル・4気筒
冷却方式		水冷
燃料供給方式		フューエルインジェクション
総排気量		1,339cm^3
内径×行程		81.0×65.0mm
圧縮比		12.5
アイドリング回転速度		1,150rpm
最高出力		145kW/9,500rpm
最大トルク		155N·m/7,200rpm

項目		諸元
クラッチ形式		湿式·多板·コイルスプリング式
トランスミッション		常時噛合式6段リターン
減速比	1次	1.596
	2次	2.388
変速比	1速	2.615
	2速	1.937
	3速	1.526
	4速	1.285
	5速	1.136
	6速	1.043
キャスタ		23° 25'
トレール		93mm
ブレーキ形式	前	ダブルディスク
	後	シングルディスク
フューエルタンク容量		21L
点火方式		フルトランジスタ式・バッテリ点火
点火時期		BTDC5° /1,150rpm

サービスデータ

項　　目	調　整　値
ドライブチェーンのゆるみ	20～30mm

タイヤ空気圧	1人乗車時	前	290kPa
		後	290kPa
	2人乗車時	前	290kPa
		後	290kPa

エンジンオイル量	オイル交換時	3.1L
	オイルフィルタ交換時	3.3L
	全　容　量	4.0L

スパークプラグ	種類	NGK	CR8EIA-9
		DENSO	IU24D
	ギャップ		0.8～0.9mm

バッテリ	種　　類	YTX12-BS メンテナンスフリー
	容　　量	12V—10Ah

ランプ	ヘッドランプ	H	12V 65W (H9)
		L	12V 55W (H7)
	ポジションランプ		12V 5W×2
	ストップ／テール		LED
	ライセンスランプ		12V 5W
	ターンシグナル	前	12V 21W
		後	12V 21W

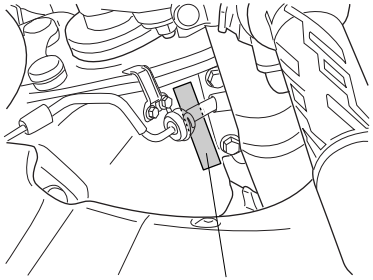
ヒューズ	1A, 10A, 15A, 30A

車台番号

アフターサービスなどを的確に行うため、お車の車台番号を記入しておいてください。

機　　種	ハヤブサ
車台番号	GX72B-

車台番号はフレームヘッドパイプ右側に打刻してあります。



車台番号打刻位置

メ　モ

メ モ

メ　モ

お車やサービスなどについてのご相談、ご意見がございましたら、お買いあげのスズキ販売店またはメンテナンスノート巻末に記載されている、お近くのスズキ二輪代理店にお申しつけください。

お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするために次の事項を必ずご確認のうえ、ご相談ください。

① 機種、型式、車台番号
② 購入年月日　④ 相談事項
③ 走行距離　⑤ ご住所、お名前、電話番号

お買いあげの販売店

[TEL]

スズキ株式会社の窓口は…
〒432-8611　浜松市南区高塚町300

スズキ株式会社

お客様相談室
◆ フリーダイヤル　0120-402253
受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00

弊社お客様相談室におけるお客様の個人情報の取扱いにつきましては、スズキ株式会社のホームページに掲載していますのでご覧ください。
(http://www.suzuki.co.jp)

こんなときは、スズキ販売店に持ち込む前に次のことを調べてみてください。

エンジンがかからない
- かけかたは取扱説明書どおりですか
- ガソリンは入っていますか

ブレーキがきかない
- ディスクブレーキはブレーキパッドの磨耗、ドラムブレーキはブレーキレバーの遊びを点検してください

ランプ類が点灯しない
- ヒューズが切れていないかを点検してください

再生紙、植物油インクを使用しています。